

b) H 地区

(a) 維管束植物

影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.2.3-29 に、確認位置を図 6.2.3-38 に示した。

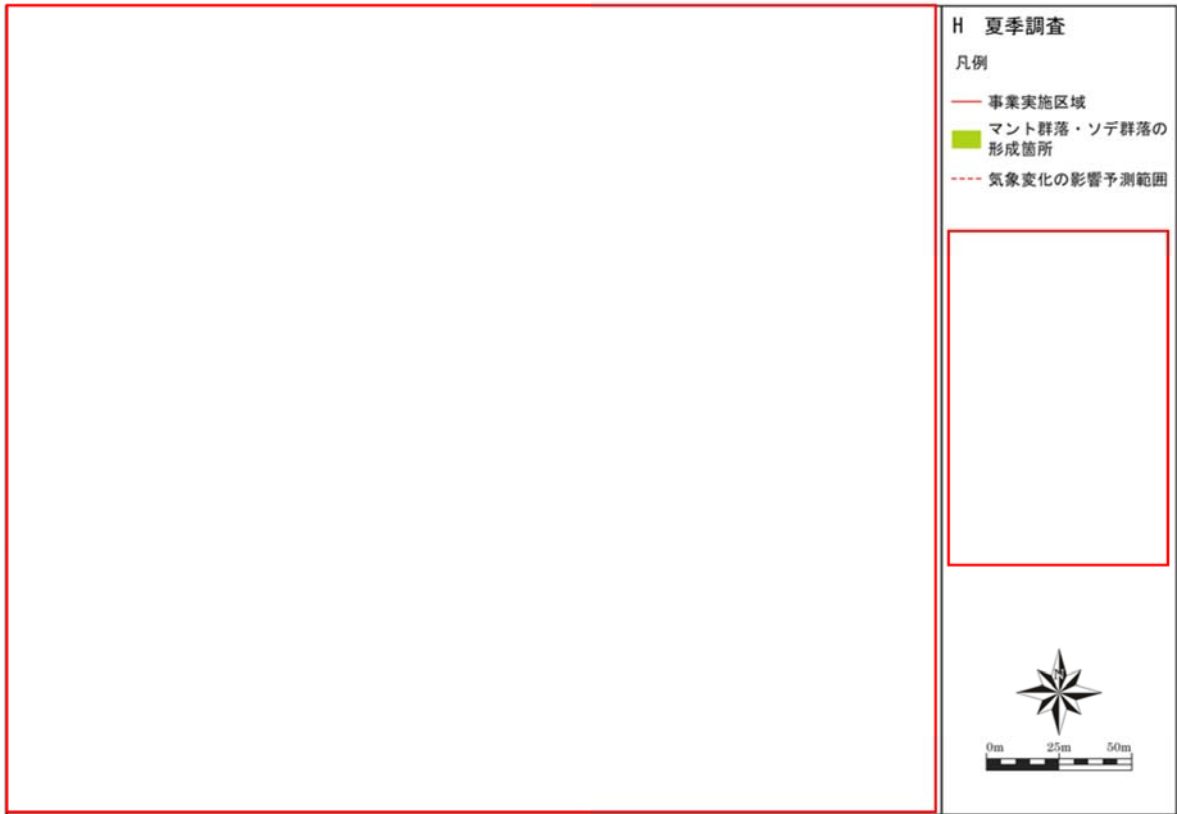
最終調査時で確認された貴重種は、10 種 85 地点 157 株であった。

主な生育地は、、、  
、、、、  
、、、の全 10 種とも林内であった。

表 6.2.3-29 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境 (H)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時						貴重種		主な 生息地
				夏季		秋季		冬季		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 7~8月		H29年 10月		H29年 12月				
				地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数			
1				2	4	4	6	4	7	VU		林内
2				1	1	1	1	1	1	CR	EN	林内
3				13	64	13	64	14	65	VU	VU	林内
4				5	5	3	3	4	4	VU		林内
5				20	22	29	31	33	35	EN	VU	林内
6				8	10	13	15	13	15	VU	VU	林内
7				1	1	1	1	2	2	VU	VU	林内
8				6	12	5	12	5	12	NT		林内
9				2	5	2	5	2	5	VU	EN	林内
10				3	8	3	3	7	11	VU	EN	林内
計	7科	10種		61	132	74	141	85	157	10	7	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。



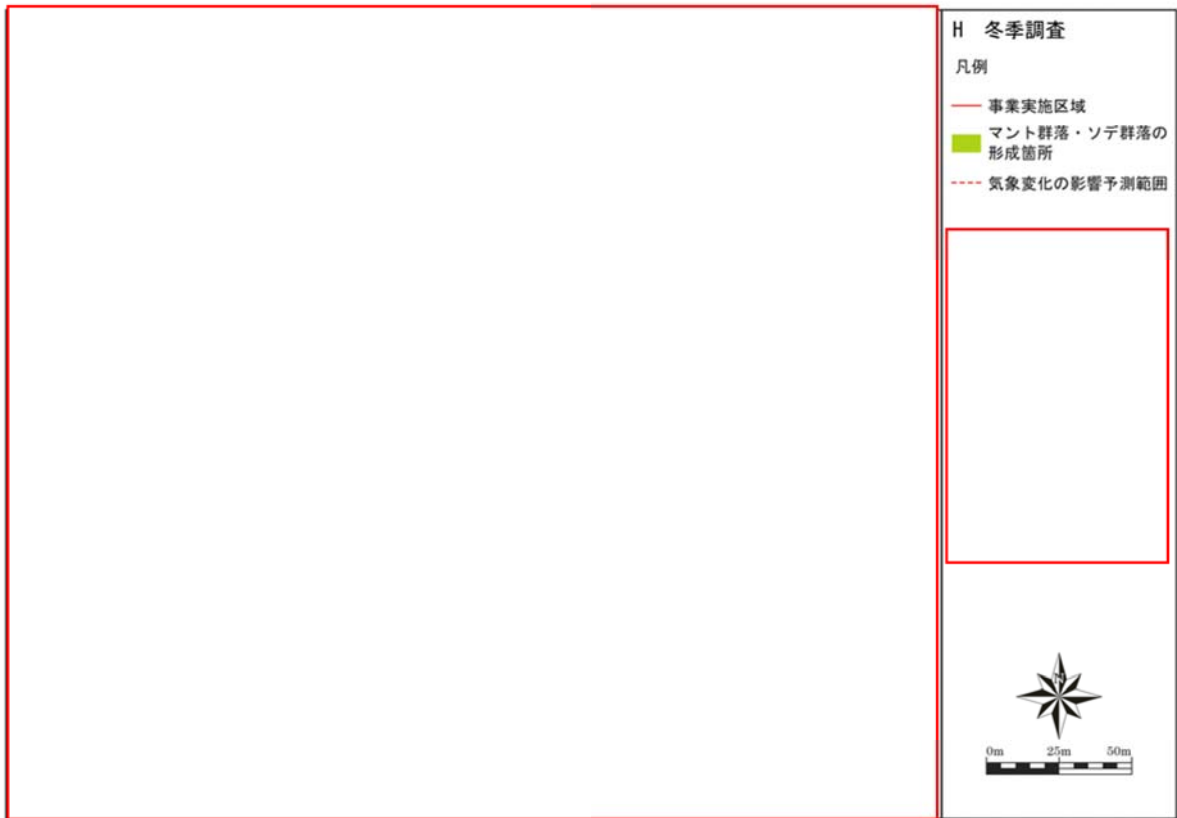
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-38(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 29 年度夏季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-38(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 29 年度秋季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-38(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H)平成 29 年度冬季

(b) 蘚苔類

影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表 6.2.3-30 に、確認位置を図 6.2.3-39 に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は 1 科 1 種 2 地点であった。

主な生育地は、H 西側の沢で確認されており、                    は、林内の湿った土上に生育していた。

表 6.2.3-30 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(H)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時			貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				夏季	秋季	冬季	環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 7月	H29年 10月	H30年 2月			
				地点数	地点数	地点数			
1				2	2	2	VU	VU	林内の湿土上
計	1科		1種	2	2	2	1	1	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。



図 6.2.3-39(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 29 年度夏季

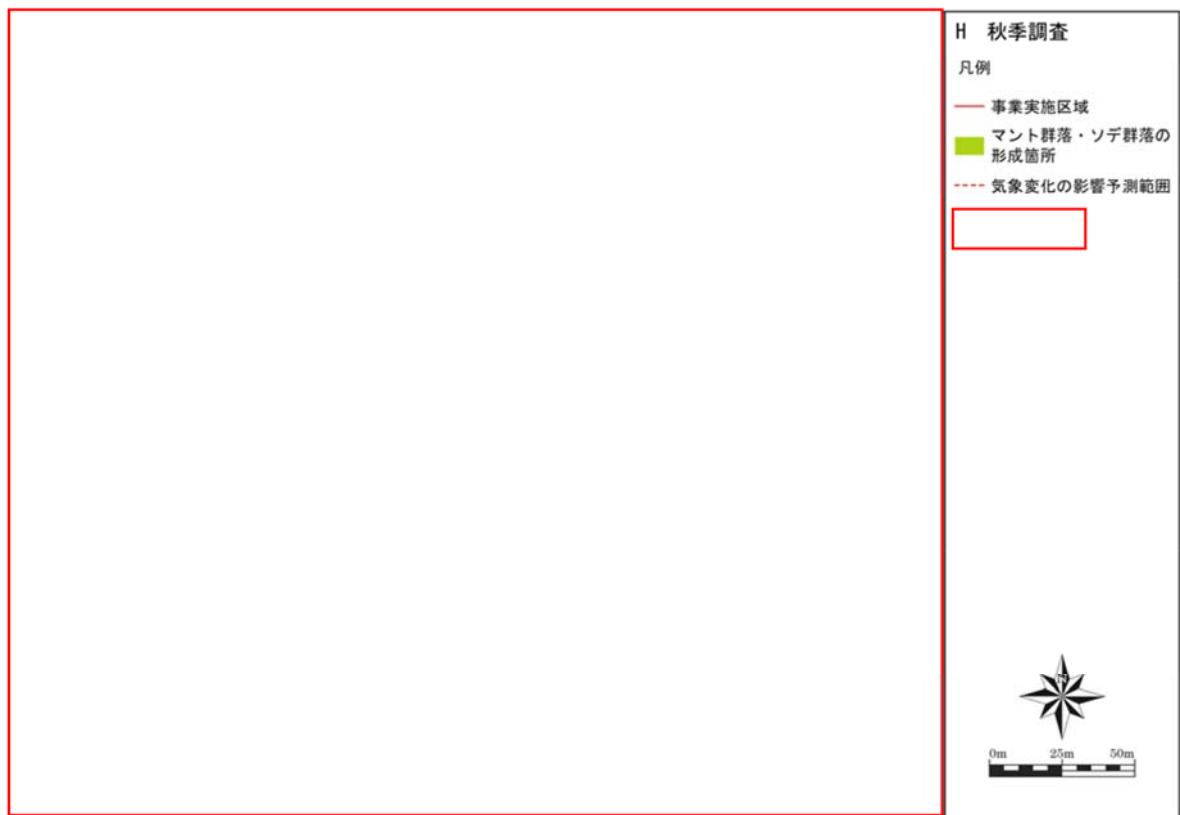


図 6.2.3-39(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 29 年度秋季

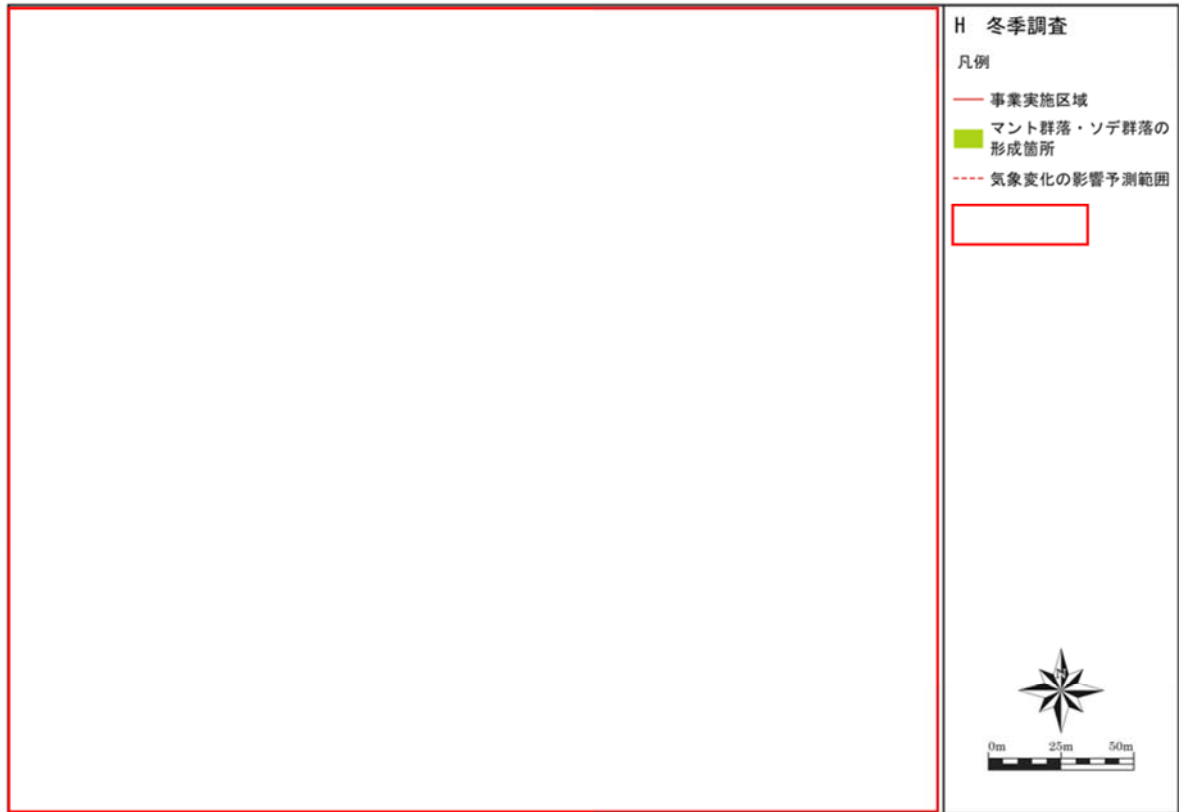


図 6.2.3-39(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 29 年度冬季

### (c) 植生断面図

平成 29 年度の最終調査における H 植生断面模式図の南北方向を図 6.2.3-40 に、東西方向を図 6.2.3-41 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

H は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

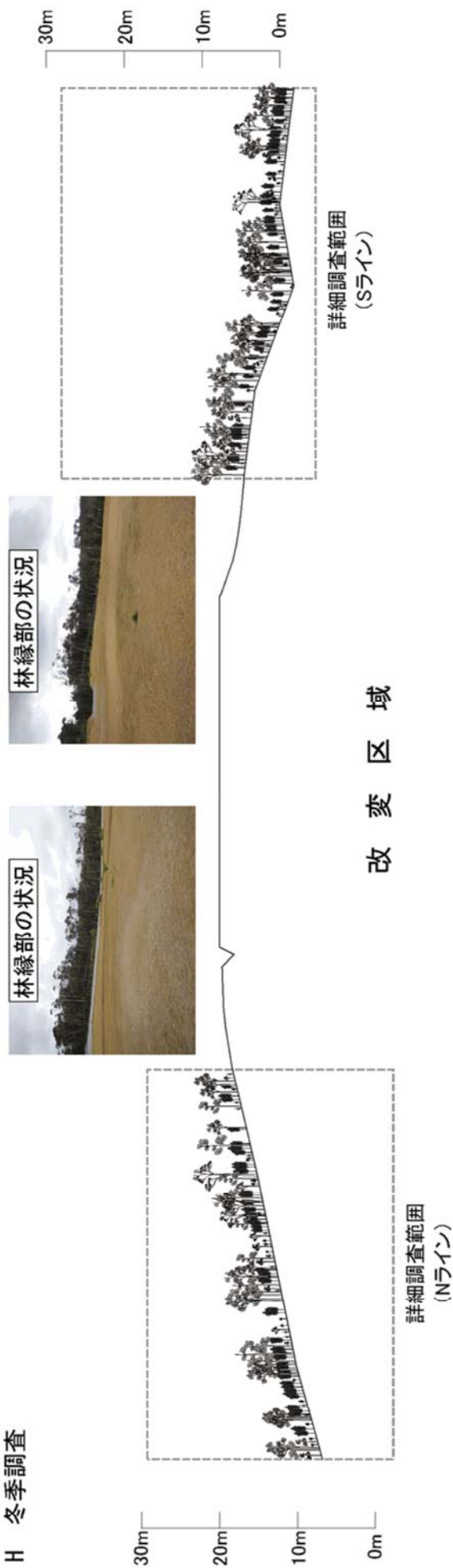
北側は、傾斜地でスダジイ-リュウキュウチク群落、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

南側も傾斜地で林縁部からスダジイ-リュウキュウチク群落が続いている。

東側は、無障害物帯林縁部から 10m 程度の森林環境のあと、舗装された既存の管理用道路が存在し、着陸帯中心から約 45m 付近及び約 55m 付近が急傾斜の法面となっているほかは、緩傾斜の尾根部となっている。法面部以外はインドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、シバニッケイ-リュウキュウチク群落となっている。

西側は、尾根部斜面となっており、スダジイ-イスノキ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落となっている。

H 冬季調査

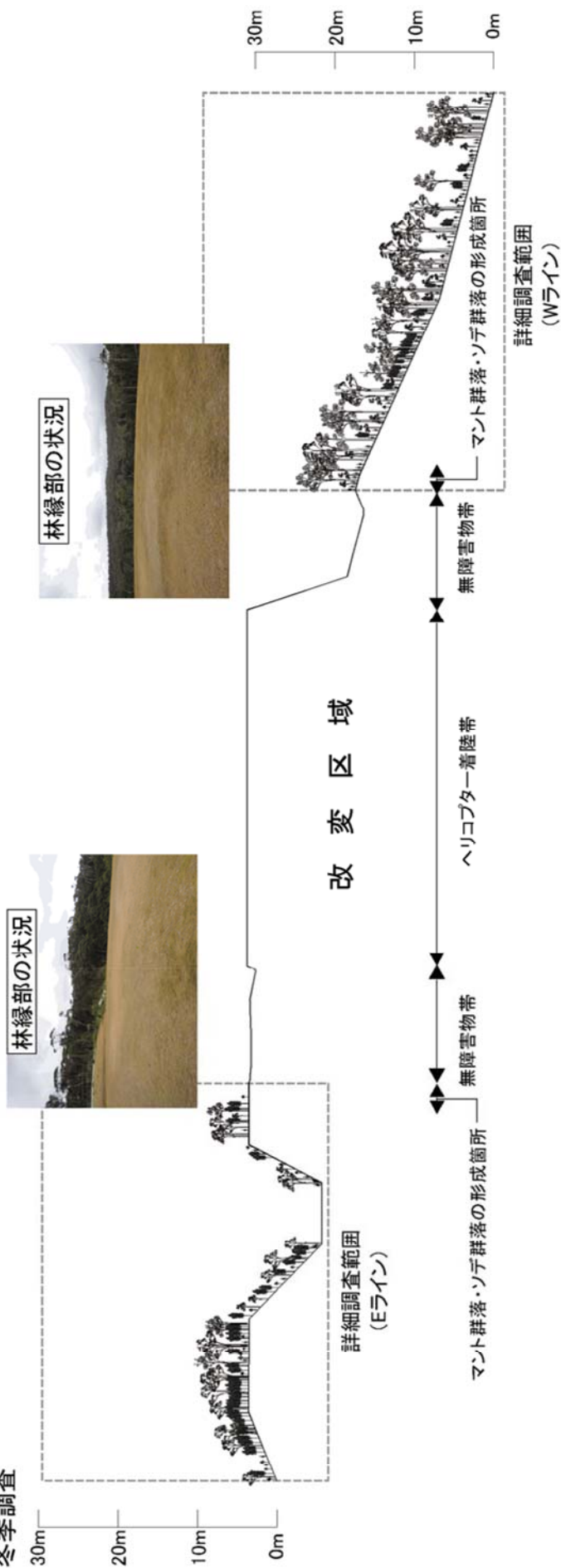


植生状況	マント群落・ソデ群落の形成箇所		ヘリコプター着陸帯		無障害物帯		マント群落・ソデ群落の形成箇所	
	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	胸高直径 (cm)
確認された貴重種								
	10.4m~ 6.1m	13.1cm~ 5.3cm	7.9m~ 4.4m	8.3cm~ 6.2cm	7.4m~ 4.5m	7.4m~ 4.5m	7.9m~ 4.4m	8.3cm~ 6.2cm
	6.9m~ 4.3m	20.6cm~ 5.9cm	6.8m~ 4.6m	7.8cm~ 5.2cm	6.8m~ 4.6m	6.8m~ 4.6m	6.9m~ 4.3m	7.8cm~ 5.2cm
	6.9m~ 5.2m	17.1cm~ 5.6cm	6.9m~ 5.2m	17.1cm~ 5.6cm	6.8m~ 2.0m	6.8m~ 2.0m	6.9m~ 5.2m	17.1cm~ 5.6cm
	7.0m~ 4.6m	14.3cm~ 5.3cm	7.0m~ 4.6m	14.3cm~ 5.3cm	6.8m~ 2.0m	6.8m~ 2.0m	7.0m~ 4.6m	14.3cm~ 5.3cm
	7.1m~ 4.7m	22.0cm~ 5.2cm	6.3m~ 5.2m	21.4cm~ 5.3cm	6.3m~ 5.2m	6.3m~ 5.2m	7.1m~ 4.7m	22.0cm~ 5.2cm

図 6.2.3-40 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (H) 平成 29 年度冬季



H 冬季調査



植生状況	90		80		70		60		50		40		30		20		10		0	
	シロコガネ 加茂の群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落	スダジイ リュウキョウチク群落
樹高 (m)	5.1m~ 4.2m	6.9m~ 5.2m	5.4m~ 3.9m	5.0m~ 4.6m	5.2m~ 4.6m	5.0m~ 4.6m	8.6m~ 4.4m	8.8m~ 5.3m	8.6m~ 4.4m	8.7m~ 5.6m	8.7m~ 5.6m	8.6m~ 4.4m	8.8m~ 5.3m	9.3m~ 4.8m	7.9m~ 4.8m					
胸高直径 (cm)	25.5cm~ 5.9cm	29.0cm~ 6.6cm	8.6cm~ 7.4cm	10.1cm~ 7.5cm	15.0cm~ 7.0cm	10.1cm~ 7.5cm	24.2cm~ 5.0cm	13.7cm~ 5.5cm	24.2cm~ 5.0cm	15.4cm~ 5.4cm	15.4cm~ 5.4cm	24.2cm~ 5.0cm	13.7cm~ 5.5cm	16.5cm~ 5.0cm	7.1cm~ 5.9cm					
確認された 貴重種																				

図 6.2.3-41 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側一西側) (H) 平成 29 年度冬季

c) N-1 地区

(a) 維管束植物

影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.2.3-31 に示した。また、確認位置図を図 6.2.3-42 に示した。

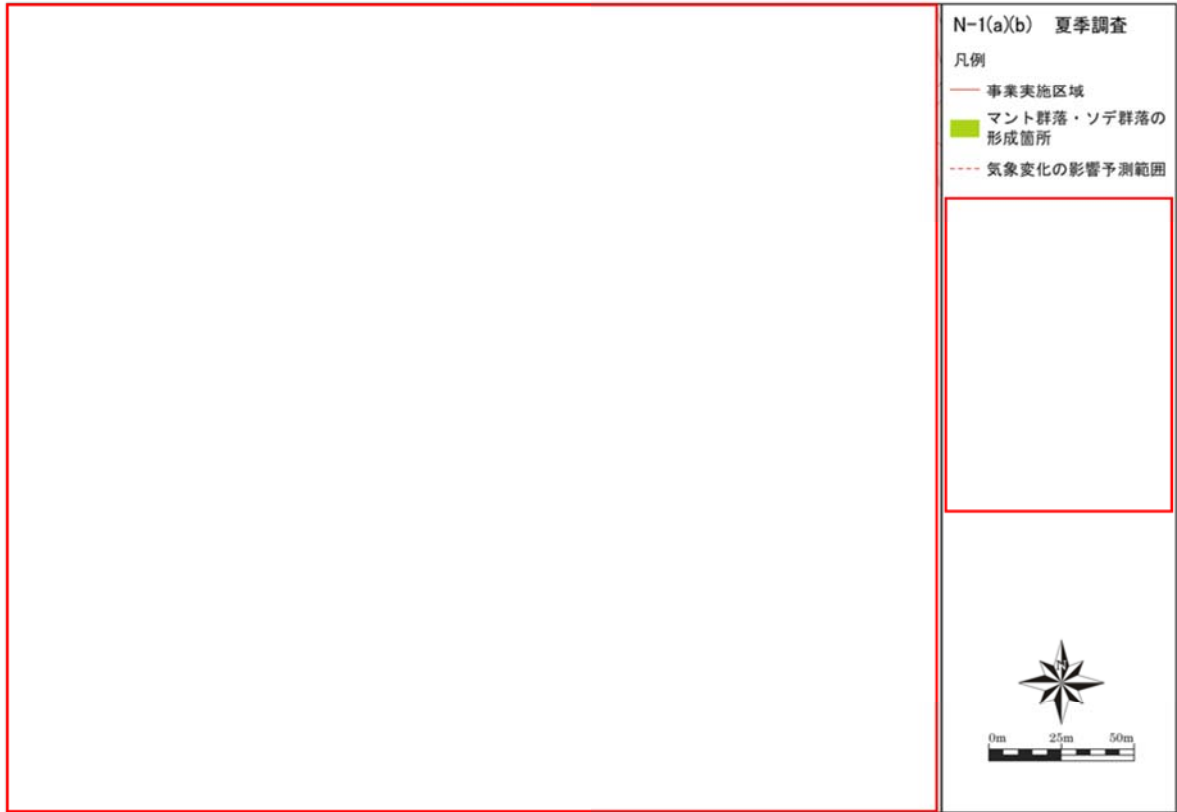
最終調査時で確認された貴重種は、13 種 186 地点 450 株であった。

主な生育地を林内、沢沿いに区分すると、林内に [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ]、 [ ] の 12 種を確認した。沢沿いの湿潤な環境に [ ] の 1 種を確認した。

表 6.2.3-31 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境 (N-1)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時						貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				夏季		秋季		冬季		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 8月		H29年 10月		H30年 1~2月				
				地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数			
1	[ ]	[ ]	[ ]	1	3	2	4	2	7	NT		林内
2				3	3	5	5	5	VU		林内	
3				12	60	13	62	13	60	VU	VU	林内
4				15	15	11	13	10	10	VU		林内
5				26	28	28	30	30	31	EN	VU	林内
6						1	1	1	1	VU	VU	林内
7				2	2	2	2	2	2	VU	VU	林内
8				103	271	102	276	97	265	NT		林内
9				1	1	1	1			NT		林内
10				14	20	17	32	21	45	VU	EN	林内
11				3	18	3	18	3	21	NT	VU	沢沿い
12						1	2	1	2	NT	VU	林内
13						1	1	1	1	NT		林内
計	7科		13種	180	421	187	447	186	450	13	7	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。



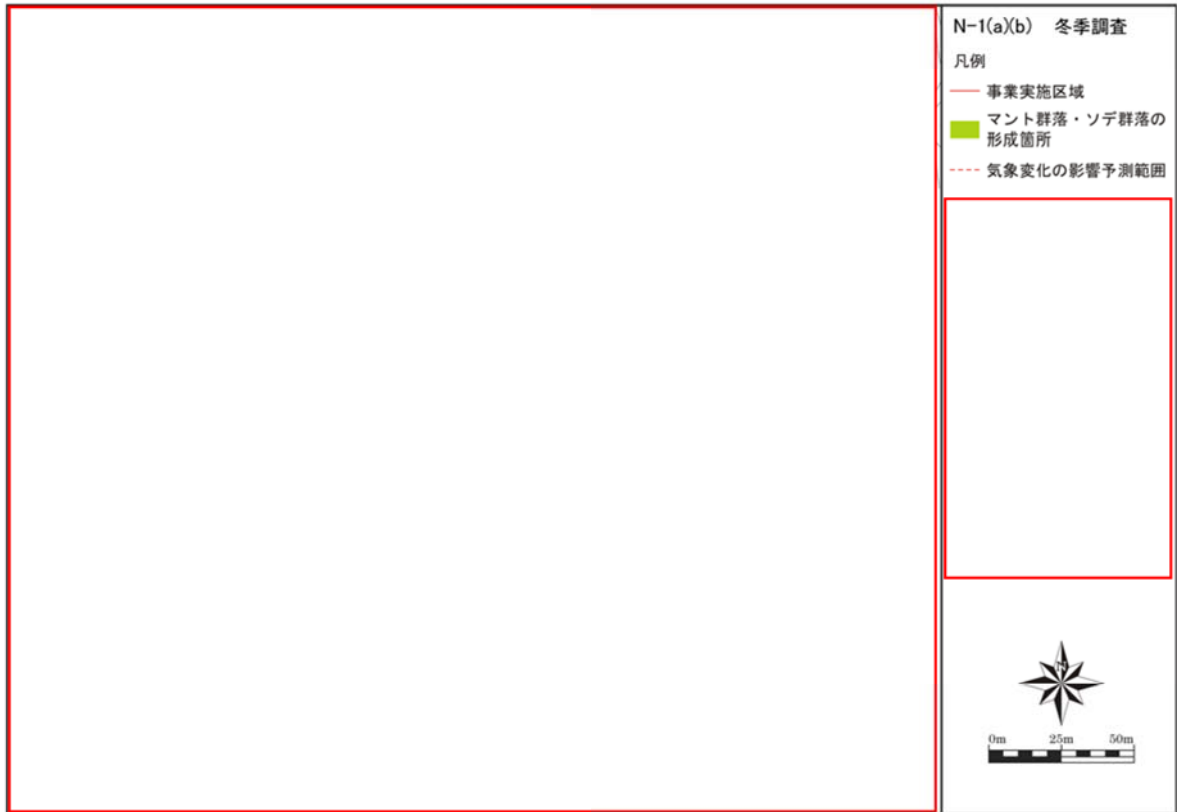
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-42(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-1)平成 29 年度夏季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-42(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-1)平成 29 年度秋季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-42(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-1)平成 29 年度冬季

(b) 蘚苔類

影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表 6.2.3-32、確認位置を図 6.2.3-43 に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は、1 科 1 種 5 地点で確認され、季節的な変動はみられなかった。

主な生育地は林内で確認されており、は沢近傍の湿った岩や土上に生育していた。

表 6.2.3-32 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境 (N-1)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時			貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				夏季	秋季	冬季	環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 7月 地点数	H29年 10月 地点数	H30年 2月 地点数			
1				3	5	5	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
計	1科	1種		3	5	5	1	0	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。



図 6.2.3-43(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 29 年度夏季



図 6.2.3-43(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 29 年度秋季



図 6.2.3-43(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 29 年度冬季

### (c) 植生断面図

平成 29 年度の最終調査における N-1(a) 植生断面模式図の南北方向を図 6.2.3-44 に、東西方向を図 6.2.3-45 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-1(a)は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

北側は、平坦な尾根となっており、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、スタジイ-リュウキュウチク群落、イジュー-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

南側は、着陸帯辺縁部から谷部傾斜地となっており、着陸帯中心から約 55m 付近まで続き、それ以降は緩やかな尾根部でスタジイ-イスノキ群落、イジュー-スタジイ群落、スタジイ-リュウキュウチク群落、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、ヒメユズリハ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、着陸帯中心から約 85m 付近が谷部となっており、林縁部からインドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、スタジイ-リュウキュウチク群落、スタジイ-タイミンタチバナ群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯辺縁に既存道路があり、着陸帯中心から約 25m 付近から傾斜地で約 60~75m 付近が谷部湿地となっている。谷部湿地は、スタジイ-クロヘゴ群落、カキバカンコノキ-クロヘゴ群落、それ以外はスタジイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

また、平成 29 年度の最終調査における N-1(b) 植生断面模式図の南北方向を図 6.2.3-46 に、東西方向を図 6.2.3-47 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-1(b)は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

北側は、着陸帯中心から約 45~55m 付近が谷部となる緩傾斜地となっており、スタジイ-リュウキュウチク群落、スタジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。

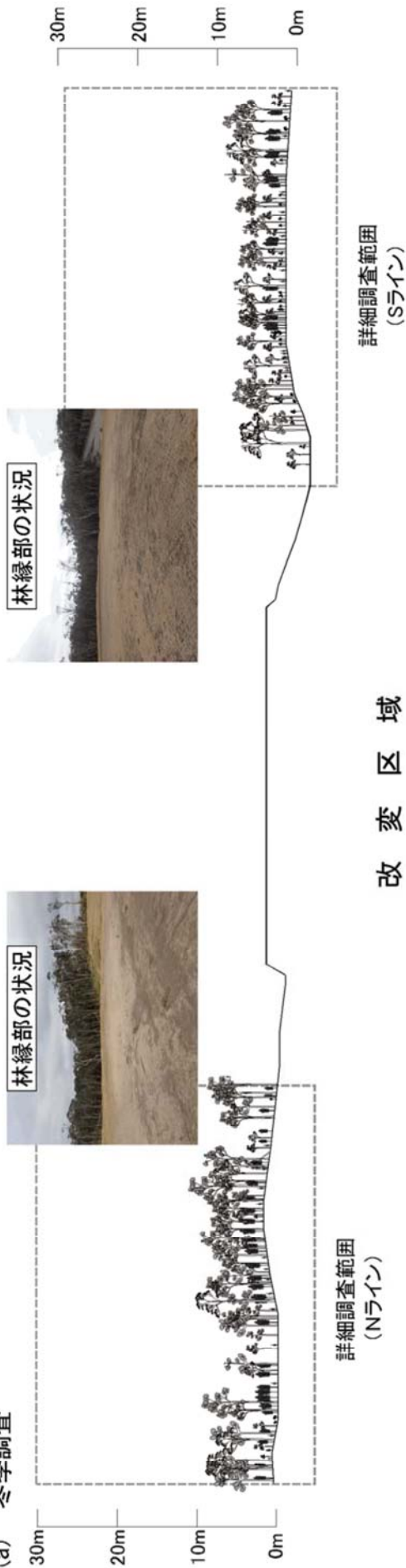
南側は、着陸帯中心から約 50m 付近までが傾斜地となり、それ以降は緩やかな尾根部となっており、スタジイ-リュウキュウチク群落、ヒメユズリハ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、林縁部から尾根部平坦地となっており、林縁部からスタジイ-リュウキュウチク群落が続く森林環境となっている。

西側は、緩傾斜地となっており、スタジイ-リュウキュウチク群落、ミヤマシロバイ-スタジイ群落、スタジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。



N-1(a) 冬季調査



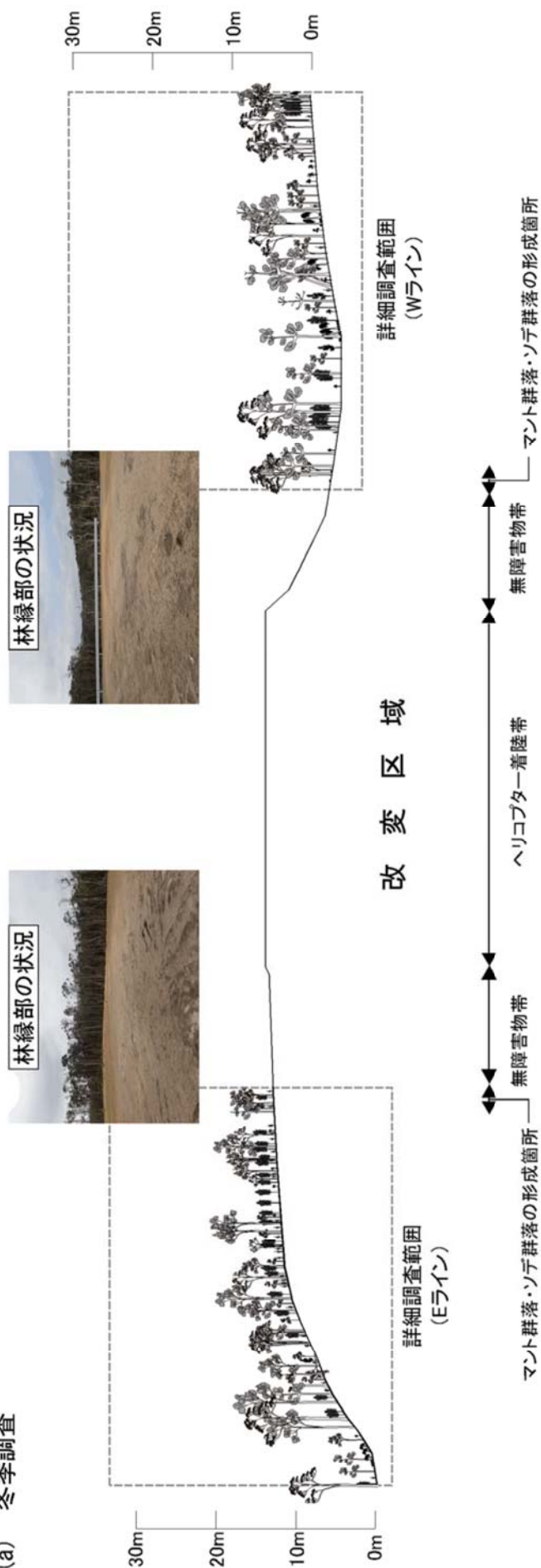
変更区域

無障害物帯      ヘリコプター着陸帯      無障害物帯

90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
樹高 (m)	8.4m 4.7m	9.6m 4.4m	10.1m 5.9m	9.6m 5.5m	8.8m 1.3m	8.6m 2.9m	8.0m 6.1m	6.9m 5.0m	8.0m 3.2m	8.0m 8.4m	23.9cm 5.5cm	17.8cm 5.4cm	11.5cm 5.2cm	9.8cm 5.2cm	15.3cm 5.2cm	8.4m 6.1m	8.4m 6.1m	8.4m 6.1m
胸高直径 (cm)	16.4cm 5.8cm	11.1cm 7.3cm	29.2cm 6.0cm	19.1cm 5.3cm	14.6cm 5.9cm	8.6m 2.9m	8.0m 6.1m	6.9m 5.0m	8.0m 3.2m	8.0m 8.4m	23.9cm 5.5cm	17.8cm 5.4cm	11.5cm 5.2cm	9.8cm 5.2cm	15.3cm 5.2cm	8.4m 6.1m	8.4m 6.1m	8.4m 6.1m
確認された貴重種																		

図 6.2.3-44 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (N-1(a)) 平成 29 年度冬季

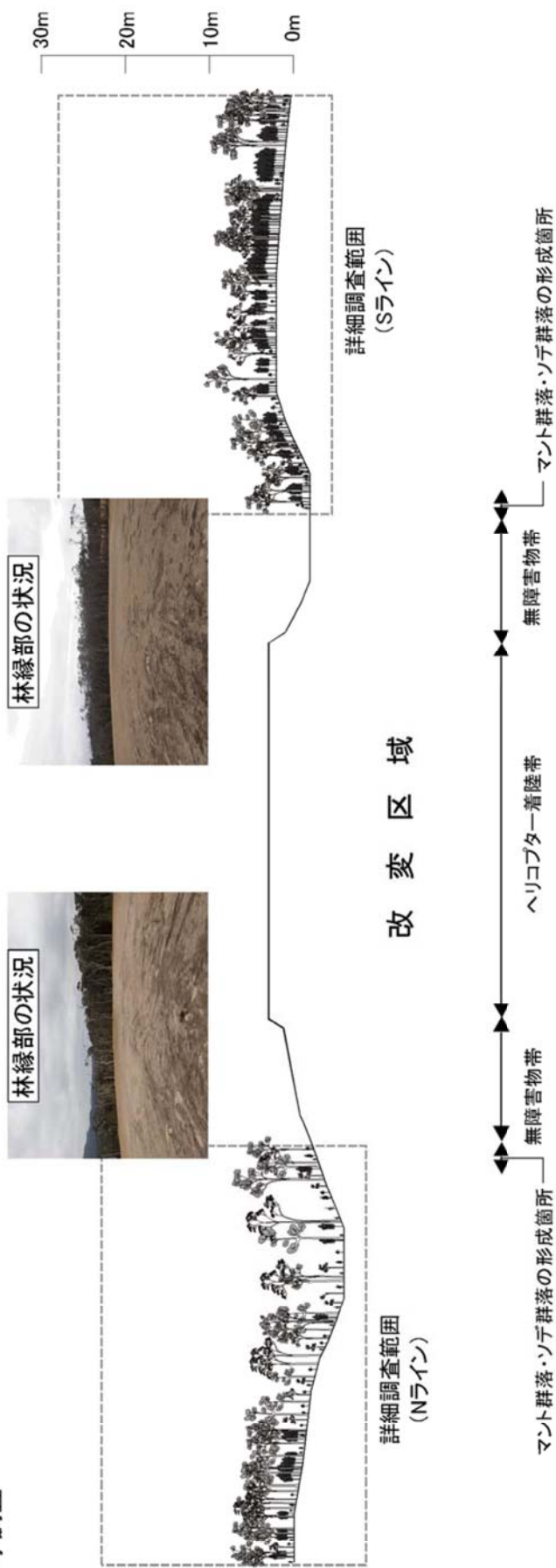
N-1 (a) 冬季調査



90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
マミカガ群落	タミカガ群落	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ	ソグイ
13.5m~ 11.0m	13.0m~ 0.3m	9.6m~ 5.5m	9.0m~ 3.9m	7.9m~ 3.8m	13.0m~ 6.8m	10.6m~ 7.0m	11.5m~ 2.8m	11.3m~ 9.3m	22.0cm~ 11.6cm	22.0cm~ 7.3cm	29.7cm~ 5.3cm	15.5cm~ 5.4cm	13.0cm~ 5.2cm	19.1cm~ 8.1cm	22.7cm~ 7.2cm	15.6cm~ 7.2cm	9.3m~ 5.5m	17.8cm~ 5.7cm
樹高直径 (cm)	樹高直径 (cm)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)	樹高 (m)
確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種	確認された 貴重種

図 6.2.3-45 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-1 (a)) 平成 29 年度冬季

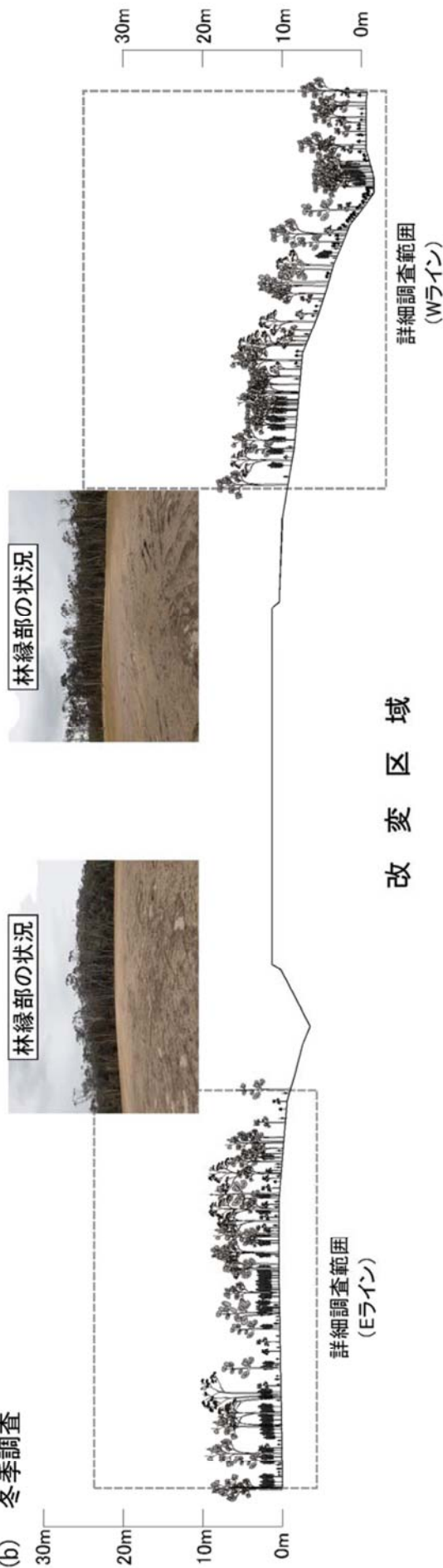
N-1 (b) 冬季調査



植生状況	Sライン リュウノヒゲ群落		Sライン リュウノヒゲ群落		Sライン リュウノヒゲ群落		Sライン リュウノヒゲ群落		Sライン リュウノヒゲ群落				
	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹高(m)	胸高直径(cm)			
確認された貴重種	7.7m~ 5.3m	7.6m~ 5.8m	9.3m~ 5.4m	10.1m~ 3.7m	11.5m~ 7.2m	17.8cm~ 3.8cm	16.4cm~ 5.0cm	12.8cm~ 5.8cm	7.9m~ 4.6m	7.1m~ 3.9m	9.1m~ 5.4m	17.1cm~ 6.1cm	15.9cm~ 5.3cm

図 6.2.3-46 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (N-1 (b)) 平成 29 年度冬季

N-1 (b) 冬季調査



改変区域



樹高 (m)	9.0m~ 5.8m	10.5m~ 6.3m	8.7m~ 6.6m	9.1m~ 4.6m	7.5m~ 1.1m	9.1m~ 4.8m	10.5m~ 29.3cm~	18.8cm~ 5.3cm	7.1cm 5.2cm	4.8cm 5.1cm	5.7cm	20.5cm~	9.1m~ 5.6m	9.3m~ 3.2m	8.8m~ 6.8m	9.7m~ 5.0m	8.7m~ 4.5m	スダシイ イヌギ群落
胸高直径 (cm)	18.7cm~ 5.3cm	18.8cm~ 5.3cm	12.7cm~ 5.2cm	29.3cm~ 4.8cm	9.1cm~ 5.1cm	22.2cm~ 6.2cm	10.5cm~ 5.3cm	11.9cm~ 5.6cm	12.3cm~ 5.1cm	5.7cm	5.7cm	20.5cm~	9.1m~ 5.6m	9.3m~ 3.2m	8.8m~ 6.8m	9.7m~ 5.0m	8.7m~ 4.5m	スダシイ イヌギ群落
確認された貴重種																		

図 6.2.3-47 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-1 (b)) 平成 29 年度冬季

d) N-4.1

(a) 維管束植物

N-4.1 の影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.2.3-33 に示した。また、各調査の確認位置を図 6.2.3-48 に示した。

最終調査時で確認された貴重種は、23 種 153 地点 494 株であった。

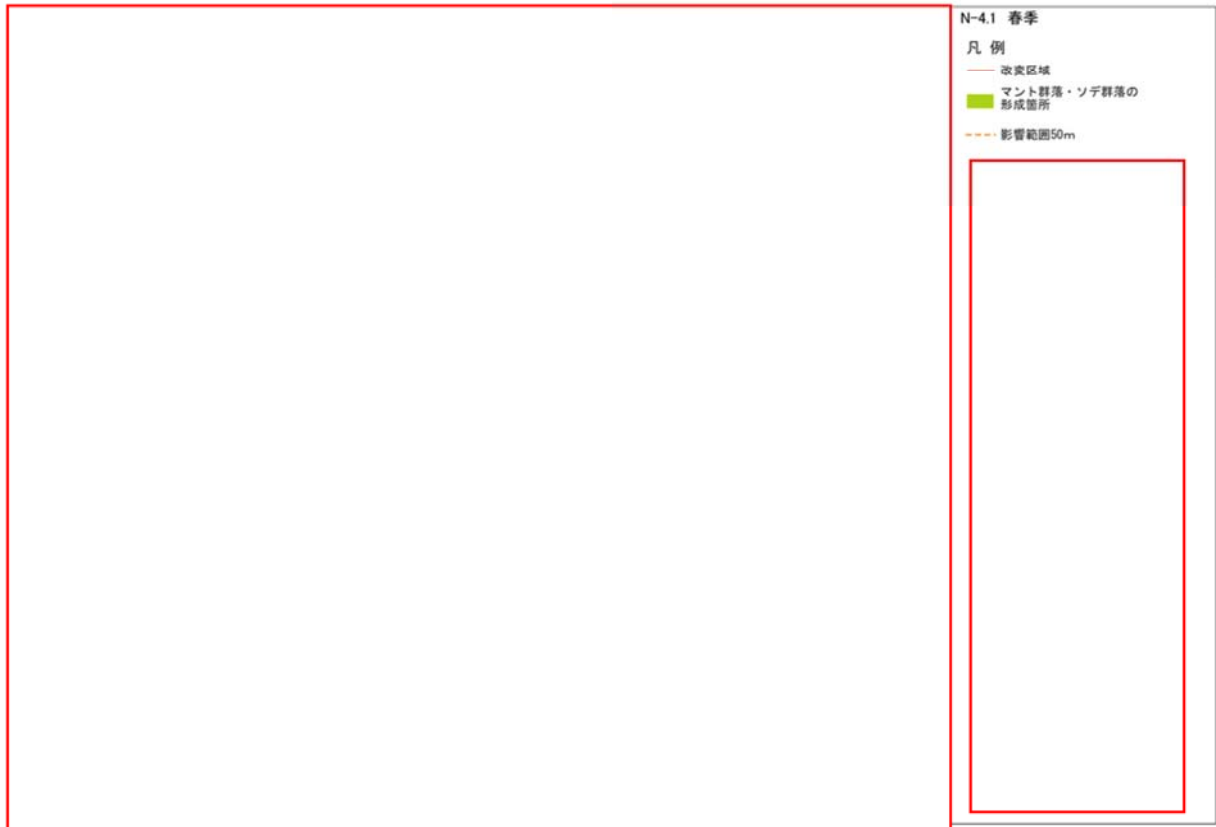
主な生育地を林内、樹幹、草地、水溜、沢沿いに区分すると、林内で最も多くの種が生育しており、や等の 18 種を確認した。草地(水溜まり含む)では、、の 2 種、樹幹ではとの 2 種を確認した。沢沿いではを確認した。

表 6.2.3-33 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境(N-4.1)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時								カテゴリー		主な生育地
				春季		夏季		秋季		冬季		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 6月	H29年 9月	H29年 11月	H30年 1月	地点数	株数	地点数	株数			
1				1	1	1	1	1	1			NT		樹幹
2				1	1	1	1	1	1	1	1	NT		林内
3				8	20	8	20	8	20	8	20	VU		林内
4				2	12	2	12	2	12	2	12	CR	CR	林内
5				13	14	12	13	13	14	13	15	VU		林内
6				1	1	1	1	1	1	1	1	CR	EN	林内
7				3	3	3	3	3	3	3	3	VU		林内
8				17	17	16	16	16	16	17	17	EN	VU	林内
9				1	1							VU	EN	
10				1	1	1	1	1	1	1	1	NT	NT	沢沿い
11				1	45	1	46	1	53	1	53		NT	草地水溜
12				2	2	2	2	2	2	2	2	CR	EN	林内
13				5	41	5	41	5	35	5	35	VU	VU	林内
14				20	52	22	55	22	50	22	50	VU	VU	林内
15				1	1	1	1	1	1	1	1	EN		林内
16				23	79	22	73	23	78	23	74	NT		林内
17				3	13							NT	VU	林内
18				16	113	14	111	14	115	14	123	VU	VU	樹幹
19				1	1	7	10	8	10	8	12	EN	VU	草地
20				1	1	1	1					NT	VU	林内
21				10	19	10	19	10	17	11	17	VU	EN	林内
22				16	46	12	31	13	42	15	43	VU	EN	林内
23				3	7	3	4	3	9	5	14	EN	VU	林内
計	10科		23種	150	491	145	462	148	481	153	494	22	16	-

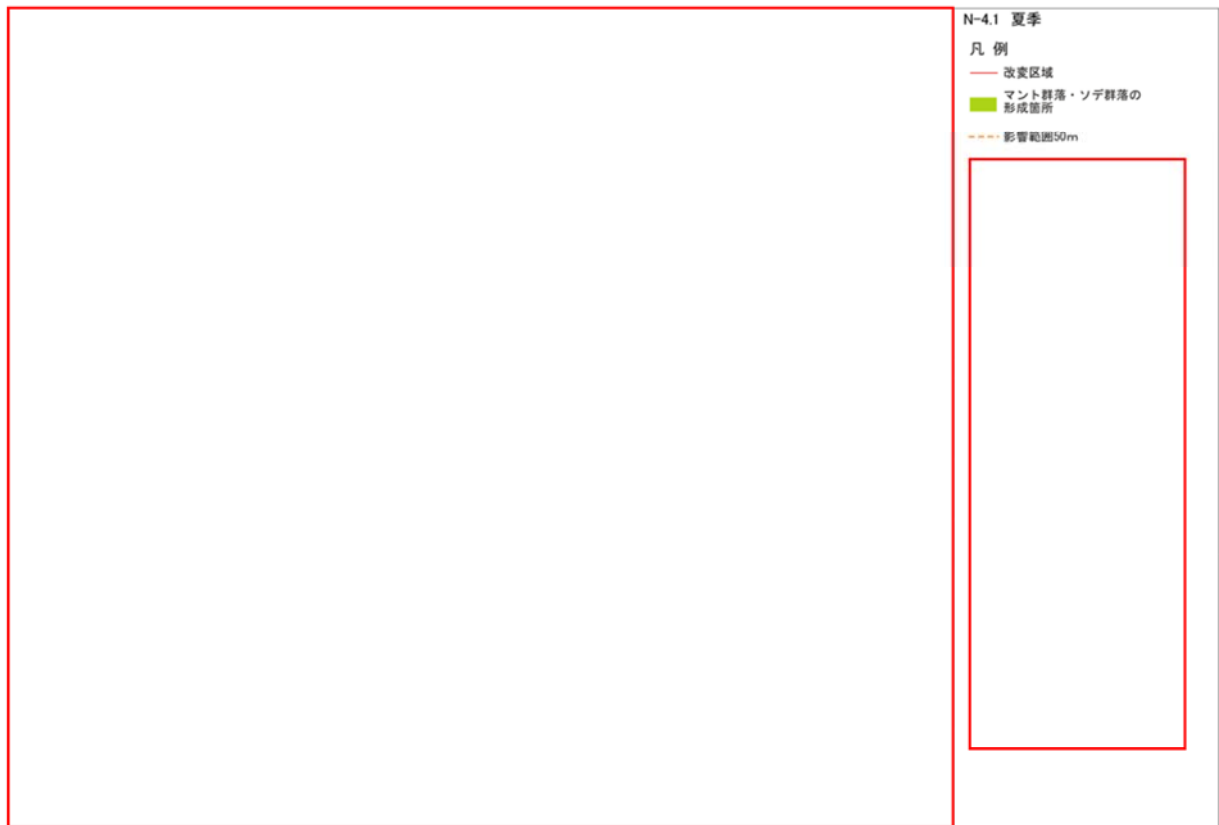
注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。





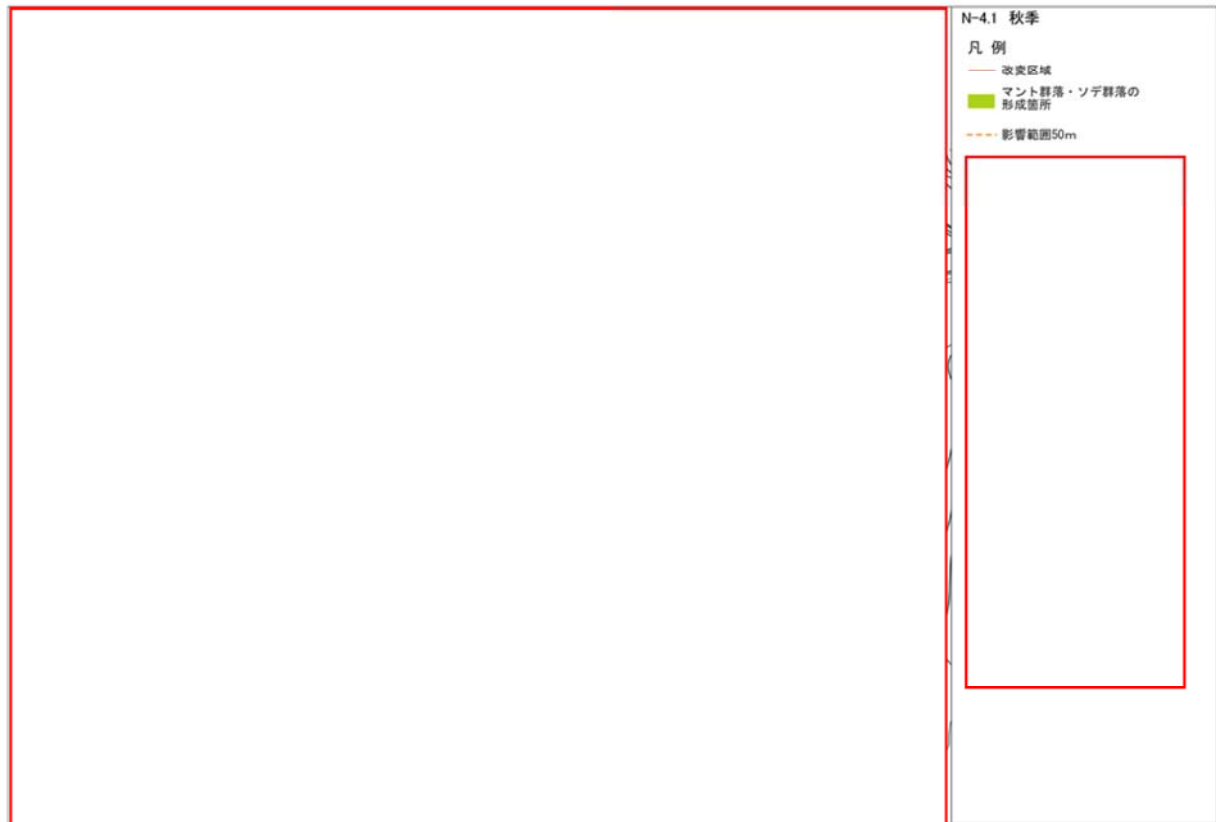
注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-48(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 29 年度春季)



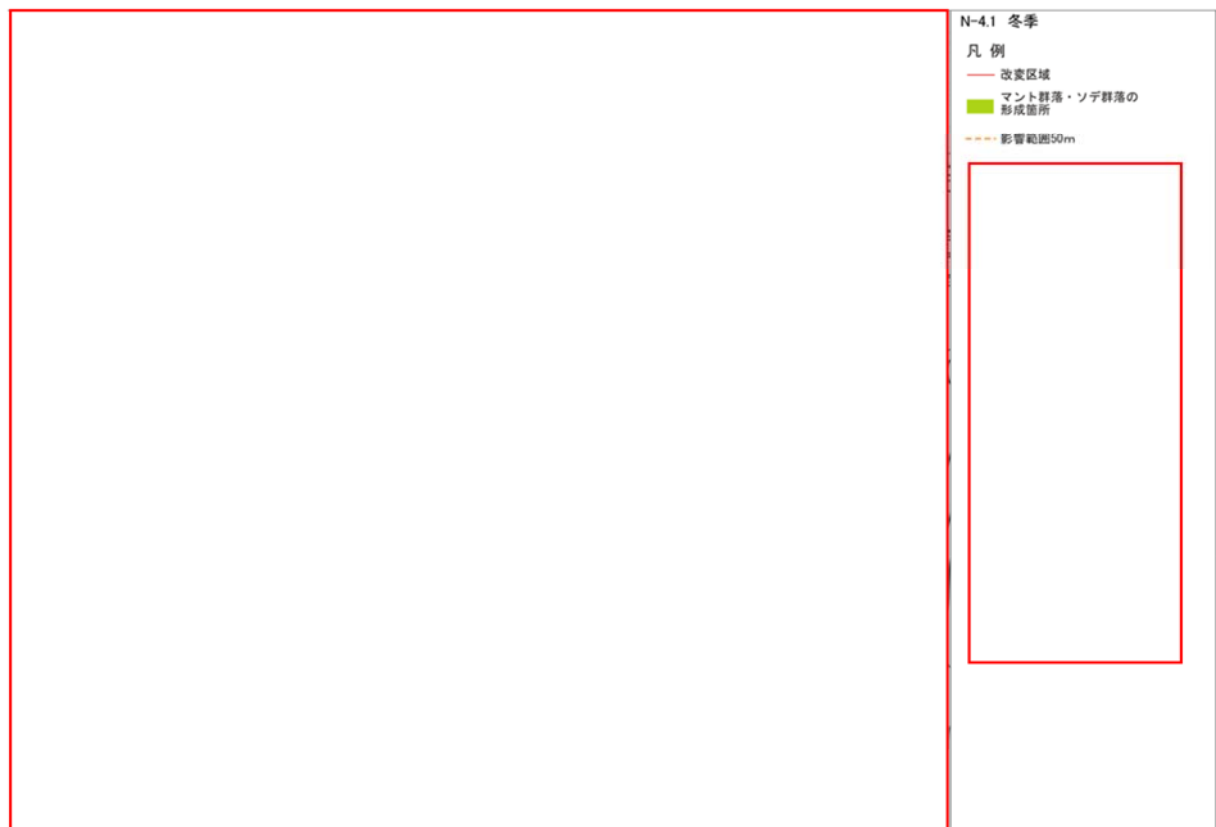
注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-48(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 29 年度夏季)



注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-48(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 29 年度秋季)



注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-48(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 29 年度冬季)

(b) 蘚苔類

N-4.1の影響範囲50m内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表6.2.3-34、確認位置を図6.2.3-49に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は、4科4種15地点で、季節的な変動はみられなかった。

表 6.2.3-34 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(N-4.1)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時				貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				春季	夏季	秋季	冬季	環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 6月	H29年 8月	H29年 11月	H30年 1月			
1				9	9	9	9	CR+EN	CR+EN	空中湿度の高い林内、溪流沿いの樹幹上
2				2	2	2	2	NT	VU	暖地の林内の岩や腐木の上
3				3	2	2	2	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
4				2	2	2	2		VU	溪流沿いや流水中の湿岩上
計	4科		4種	16	15	15	15	3	3	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表6.2.3-26を参照。



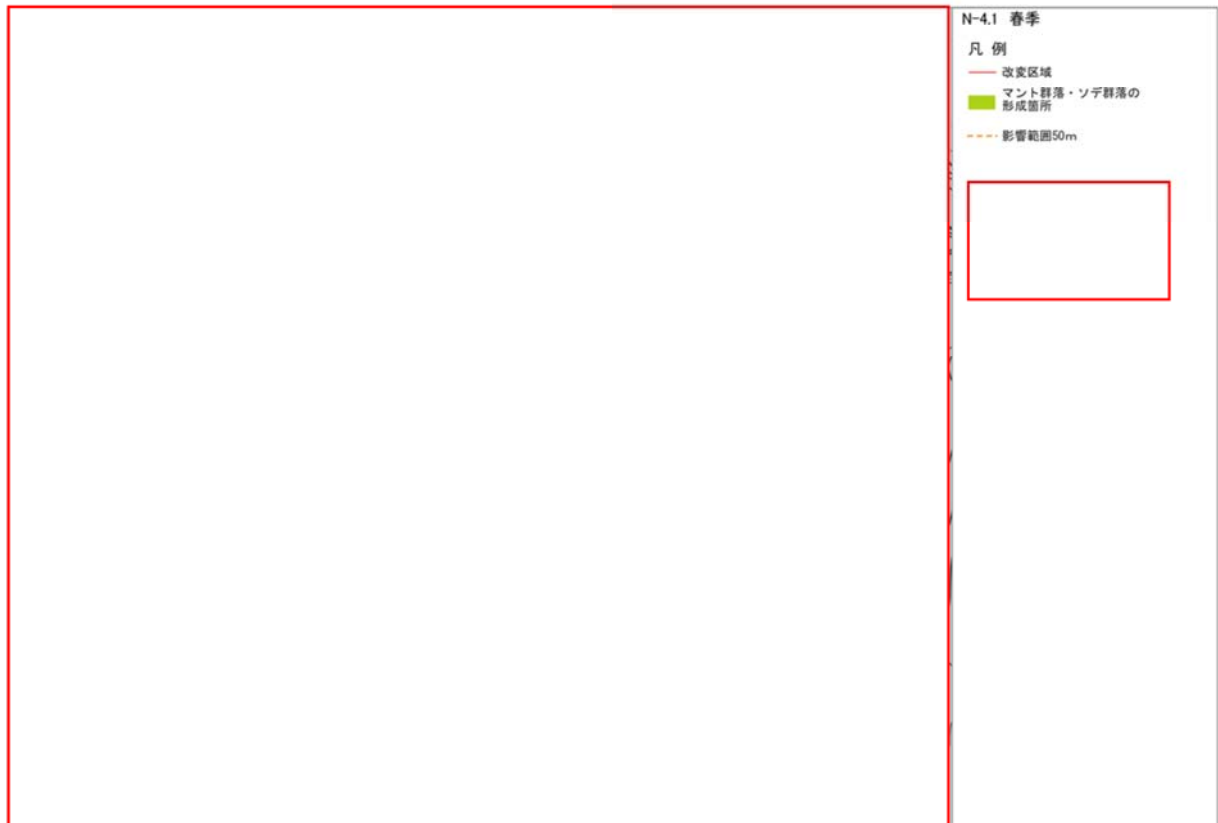


図 6.2.3-49(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.1:平成 29 年度春季)

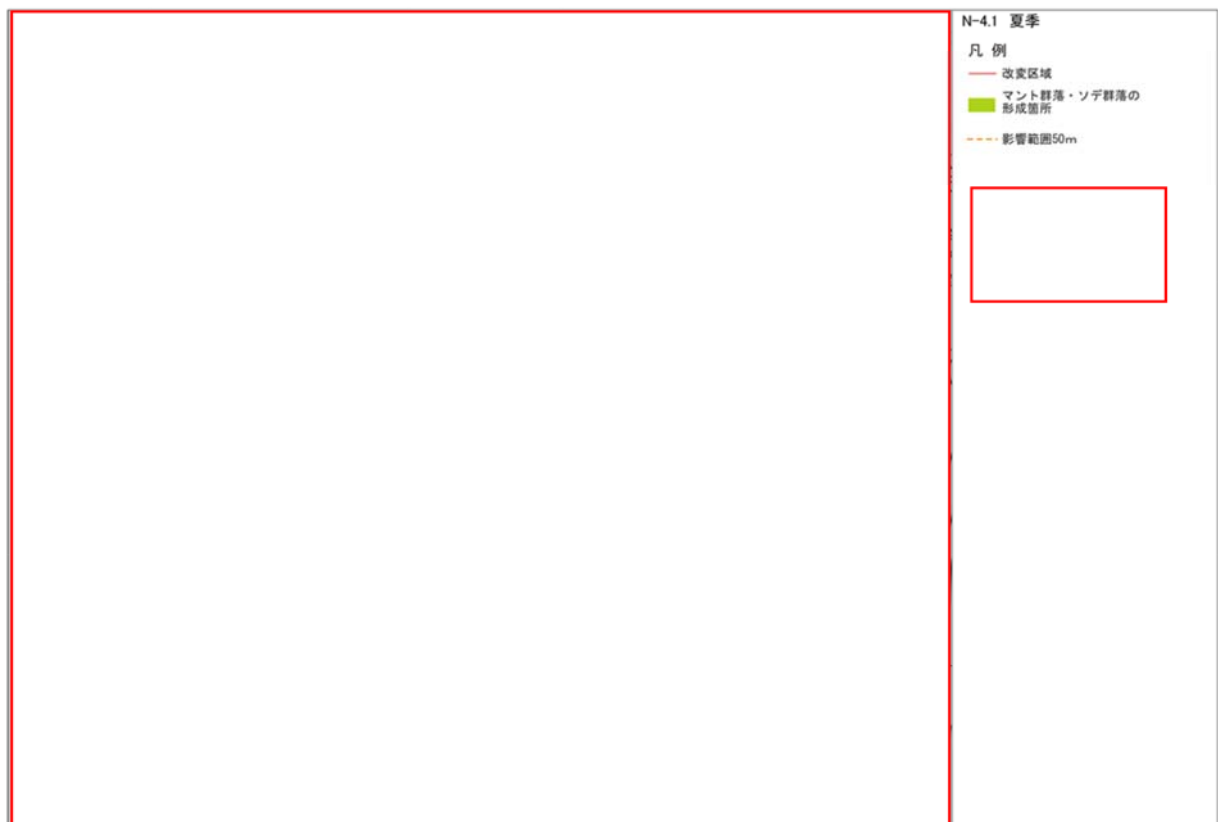


図 6.2.3-49(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.1:平成 29 年度夏季)

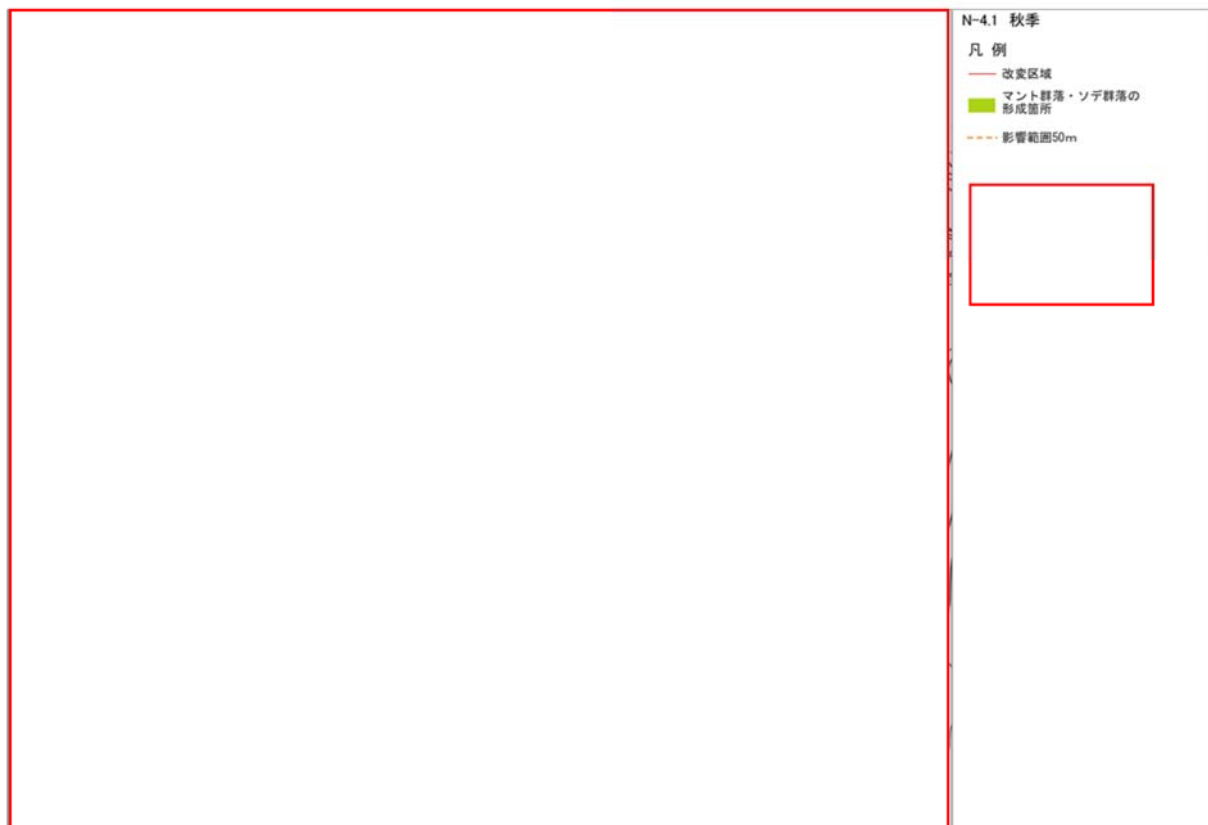


図 6.2.3-49(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(N-4.1:平成 29 年度秋季)

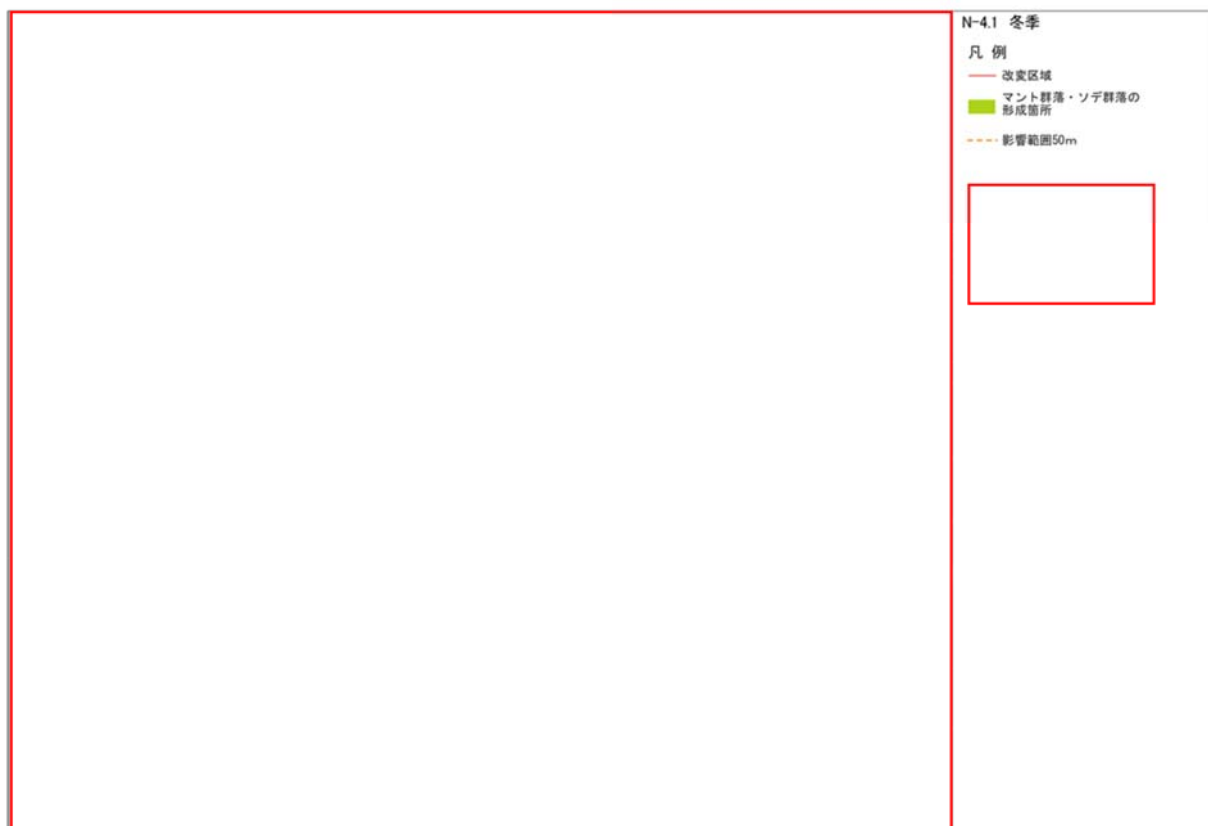


図 6.2.3-49(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(N-4.1:平成 29 年度冬季)

### (c) 植生断面図

平成 29 年度の最終調査における N-4.1 植生断面模式図の南北方向を図 6.2.3-50 に、東西方向を図 6.2.3-51 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-4.1 は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林及び草地環境が広がっている。

北側は、着陸帯辺縁部にある道路を挟み、着陸帯中心から約 65m 付近まで傾斜地が続き、約 80m 付近は谷部となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落、イジュ-イスノキ群落の森林環境となっている。

南側は、着陸帯辺縁部から谷部傾斜地となっており、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。

東側は、平坦な尾根部となっており、林縁部からリュウキュウチク群落、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯辺縁部から約 40m 付近で谷部となっており、谷部から約 55m 付近まで傾斜地が続く。それ以降は平坦部で、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、リュウキュウマツ-チガヤ群落の森林環境、ムラサキタカオススキ-ミズスギ群落、チガヤ-ミズスギ群落の草地環境となっている。

### N-4.1 冬季調査

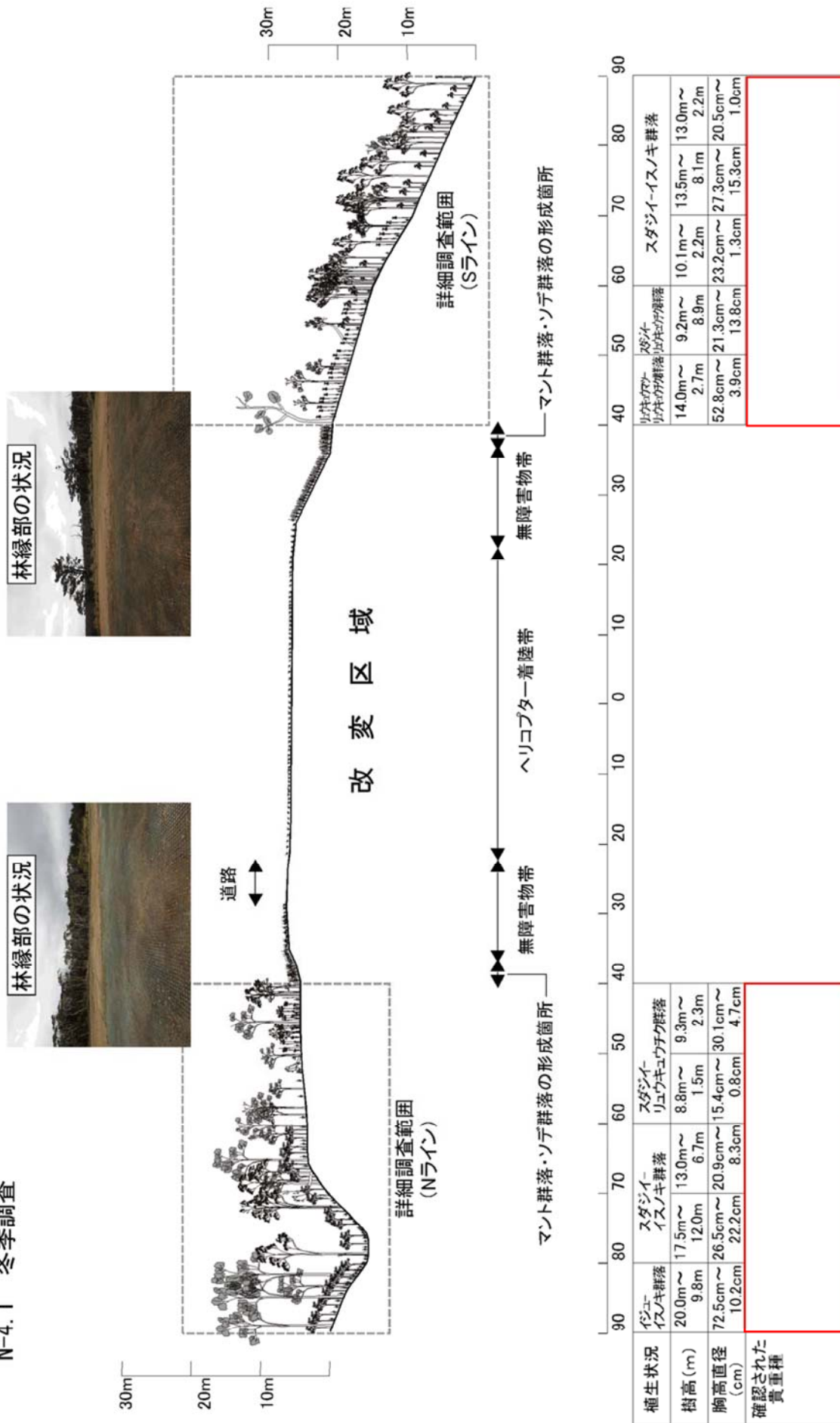


図 6.2.3-50 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (N-4.1) 平成 29 年度 冬季

### N-4.1 冬季調査

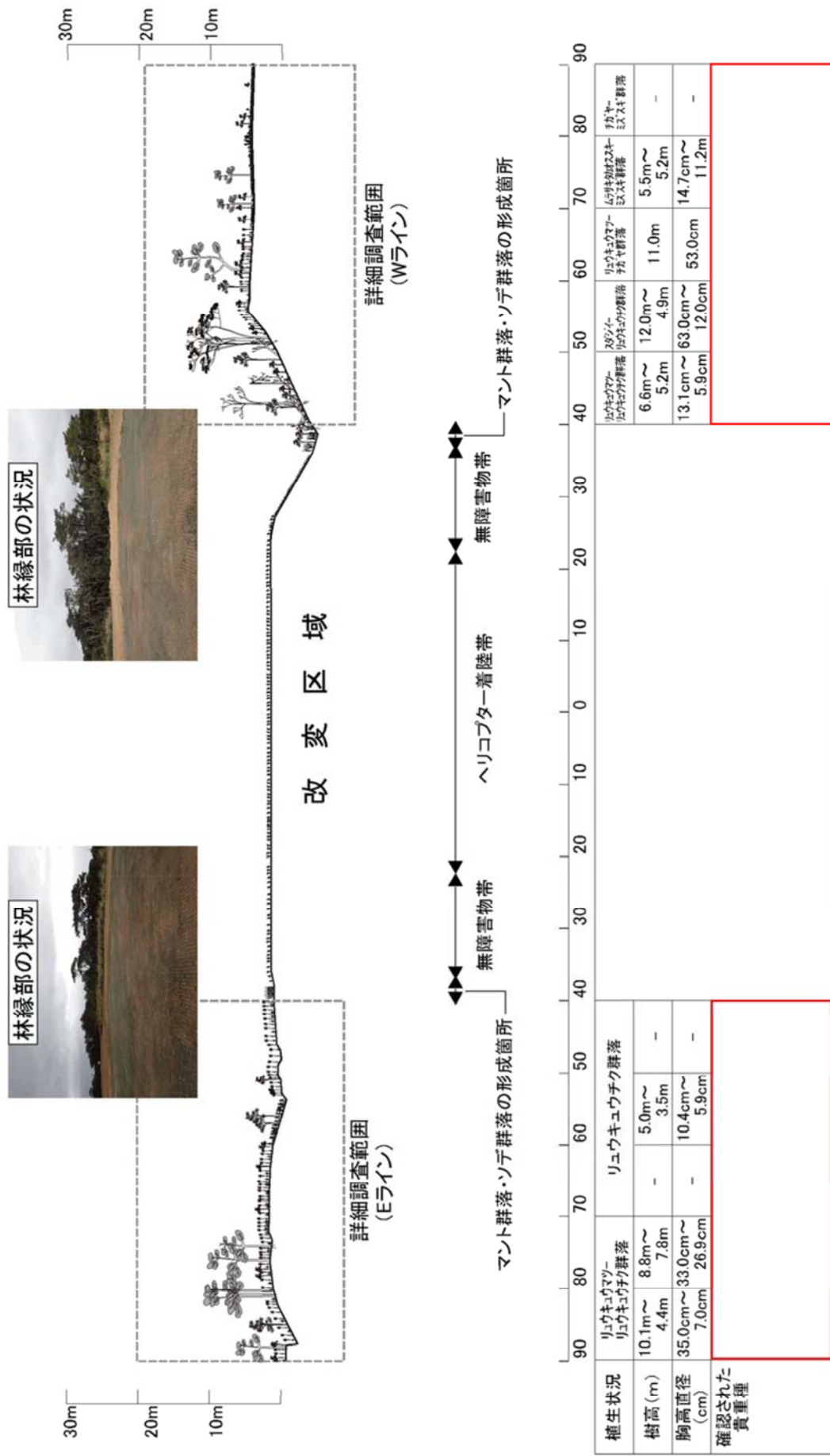


図 6.2.3-51 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-4.1) 平成 29 年度 冬季

e) N-4.2

(a) 維管束植物

N-4.2 の影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.2.3-35 に示した。また、各調査の確認位置を図 6.2.3-52 に示した。

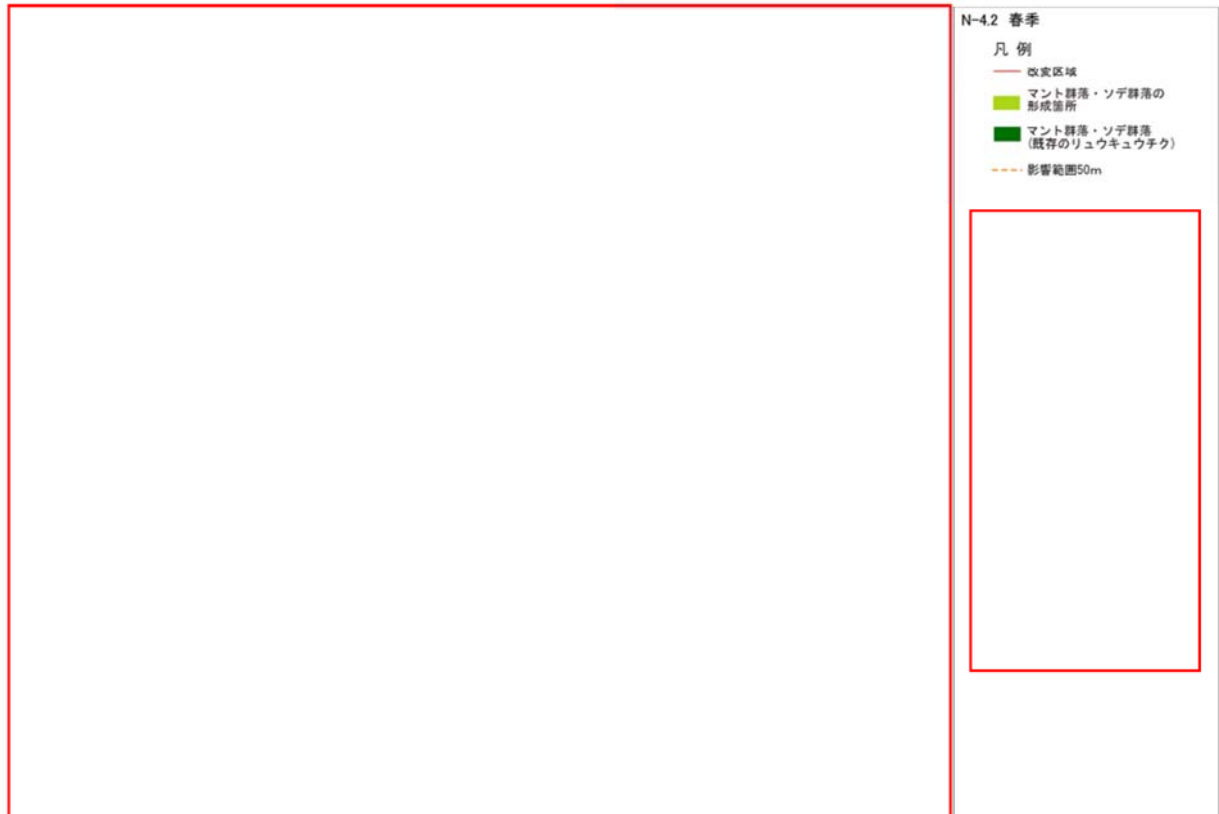
最終調査時に確認された貴重種は、22 種 119 地点 285 株であった。

主な生育地を林内、樹幹、草地、水溜、沢沿いに区分すると、林内では最も多くの種が生育しており、や等の 18 種を確認した。草地ではの 1 種、樹幹ではとの 2 種を確認した。また、沢沿いではの 1 種を確認した。

表 6.2.3-35 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境(N-4.2)

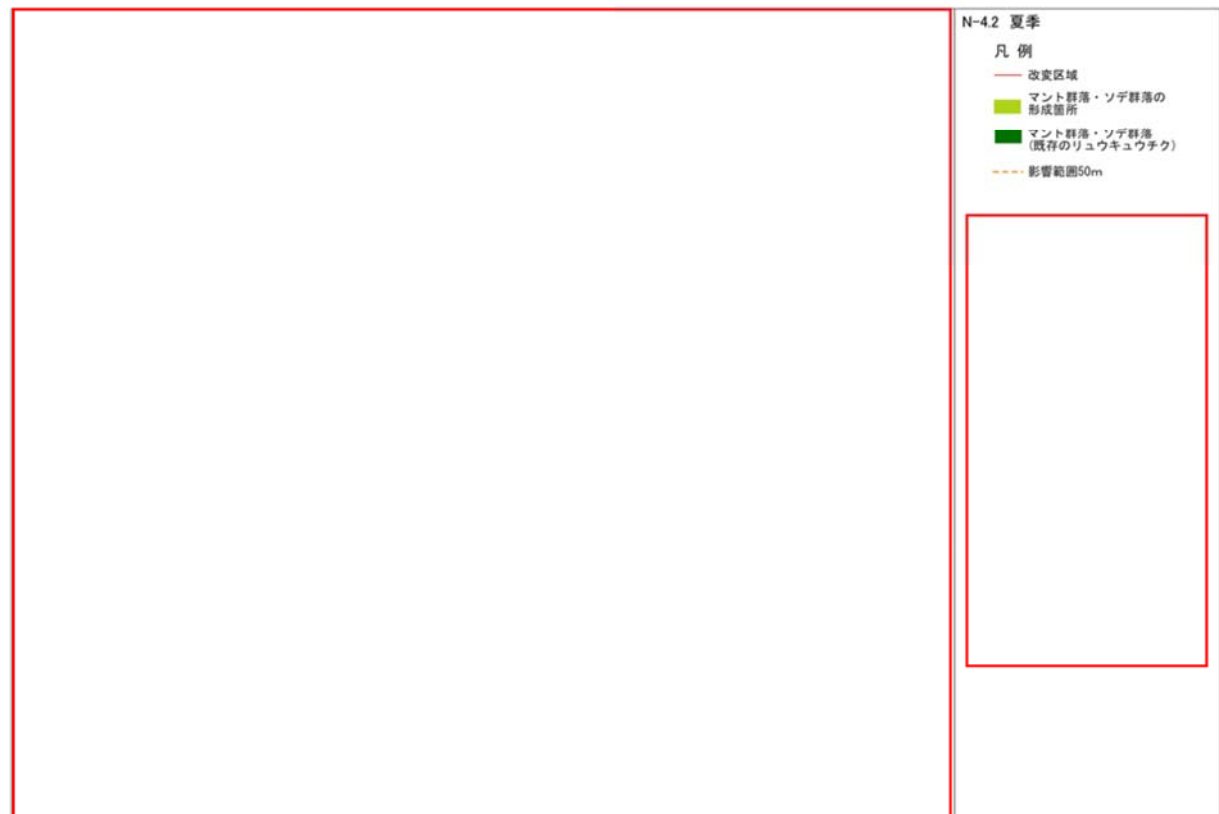
No.	科名	種名	学名	存在・供用時								カテゴリー		主な生育地
				春季		夏季		秋季		冬季		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				H29年 6月		H29年 9月		H29年 11月		H30年 1月				
				地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数			
1				3	12	3	13	4	15	3	14	NT		樹幹
2				2	4	2	4	2	3	2	3	VU		林内
3				15	17	13	15	13	16	13	16	VU		林内
4				3	3	3	3	3	3	3	3	VU		林内
5				21	30	20	28	21	29	22	30	EN	VU	林内
6				1	2							VU	EN	林内
7				1	1	1	1	1	1	1	1	NT	NT	沢沿い
8				1	3								CR	林内
9				2	2	2	2	2	2	2	2	CR	EN	林内
10				5	41	5	41	5	35	5	35	VU	VU	林内
11				15	20	14	18	13	16	13	15	VU	VU	林内
12				7	22	7	23	7	20	6	19	NT		林内
13				12	56	9	46	9	51	9	59	VU	VU	樹幹
14						1	1	2	2	3	3	EN	VU	草地
15				11	23	11	33	11	42	11	42	EN	VU	林内
16										1	2	EN		林内
17						2	2	1	1			NT	VU	林内
18				1	8							EN	EN	林内
19				14	24	17	27	17	25	19	26	VU	EN	林内
20				3	8	2	7	4	14	4	13	VU	EN	林内
21								1	1	1	1	EN	VU	林内
22				1	1	1	1	1	1	1	1	NT	VU	林内
計	9科		22種	118	277	113	265	117	277	119	285	21	16	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.2.3-26 を参照。



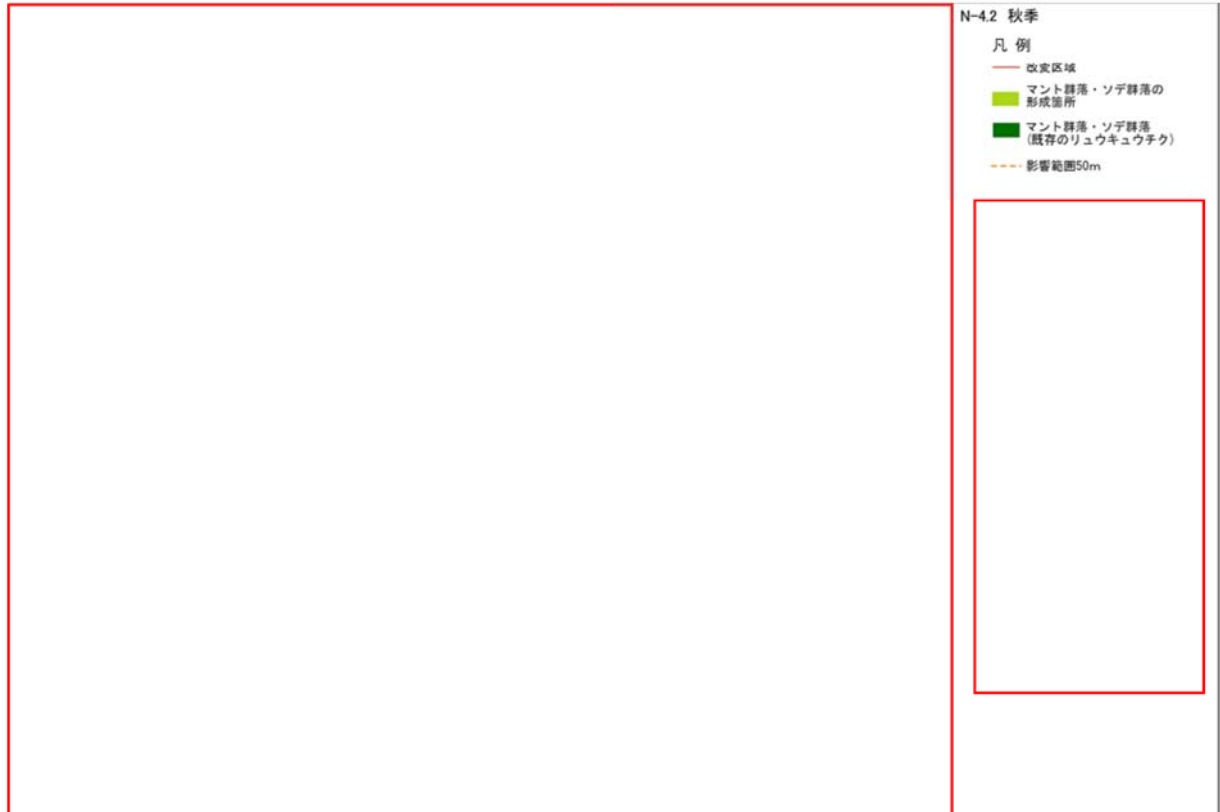
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-52(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.2:平成 29 年度春季)



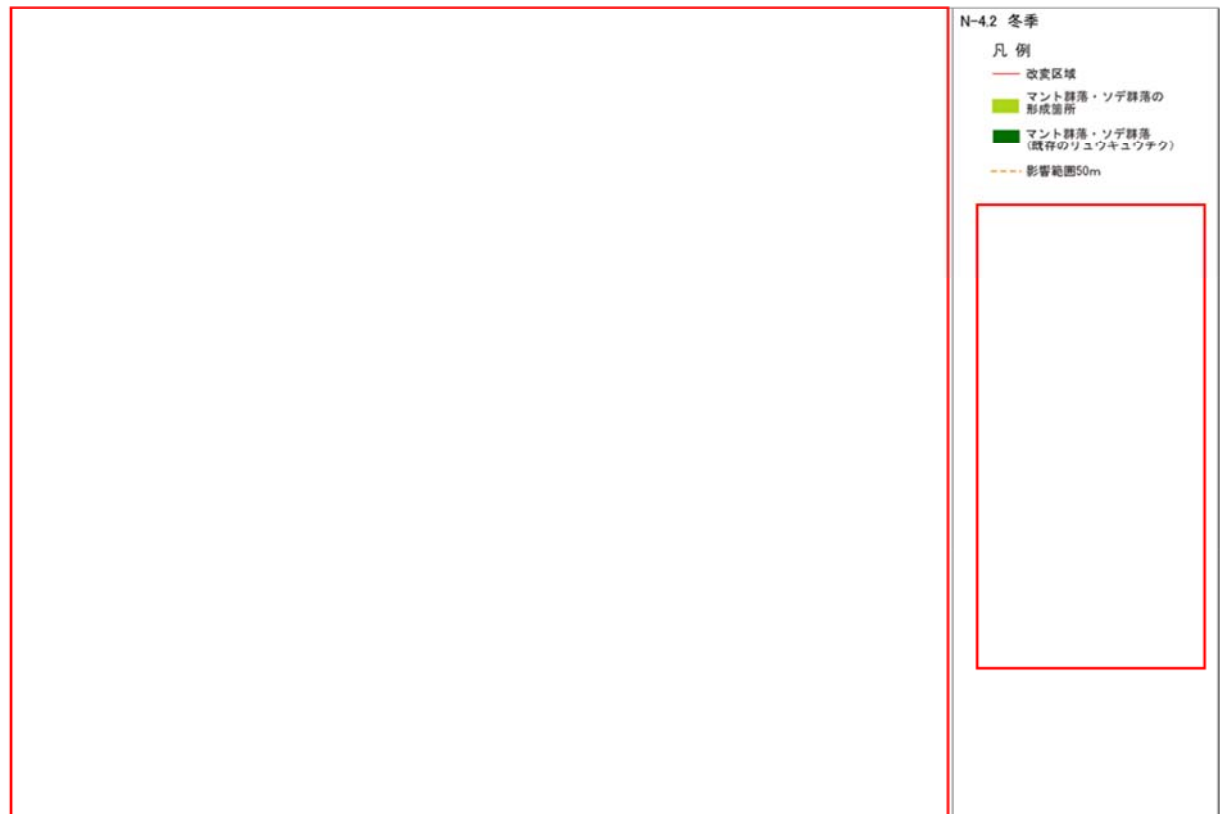
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-52(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.2:平成 29 年度夏季)



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-52(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-4.2:平成 29 年度秋季)



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.2.3-52(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-4.2:平成 29 年度冬季)



(b) 蘚苔類

N-4.2の影響範囲50m内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表6.2.3-36、確認位置を図6.2.3-53に示した。

最終調査時に確認された貴重な蘚苔類は、3科4種11地点で確認され、季節的な変動はみられなかった。

表 6.2.3-36 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(N-4.2)

No.	科名	種名	学名	存在・供用時				貴重種 <sup>注)</sup>		主な生育地
				春季 H29年 6月	夏季 H29年 9月	秋季 H29年 11月	冬季 H30年 1月	環境省 RL	沖縄県 RDB	
1				2	3	3	3		VU	林内の湿土
2				1	1	1	1	VU	VU	山地の溪流沿いの岩上や土上
3				4	4	4	4	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
4				3	3	3	3	CR+EN		空中湿度の高い渓谷で、常緑樹やシダ類の生きている葉の上
計	3科		4種	10	11	11	11	3	2	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表6.2.3-26を参照。

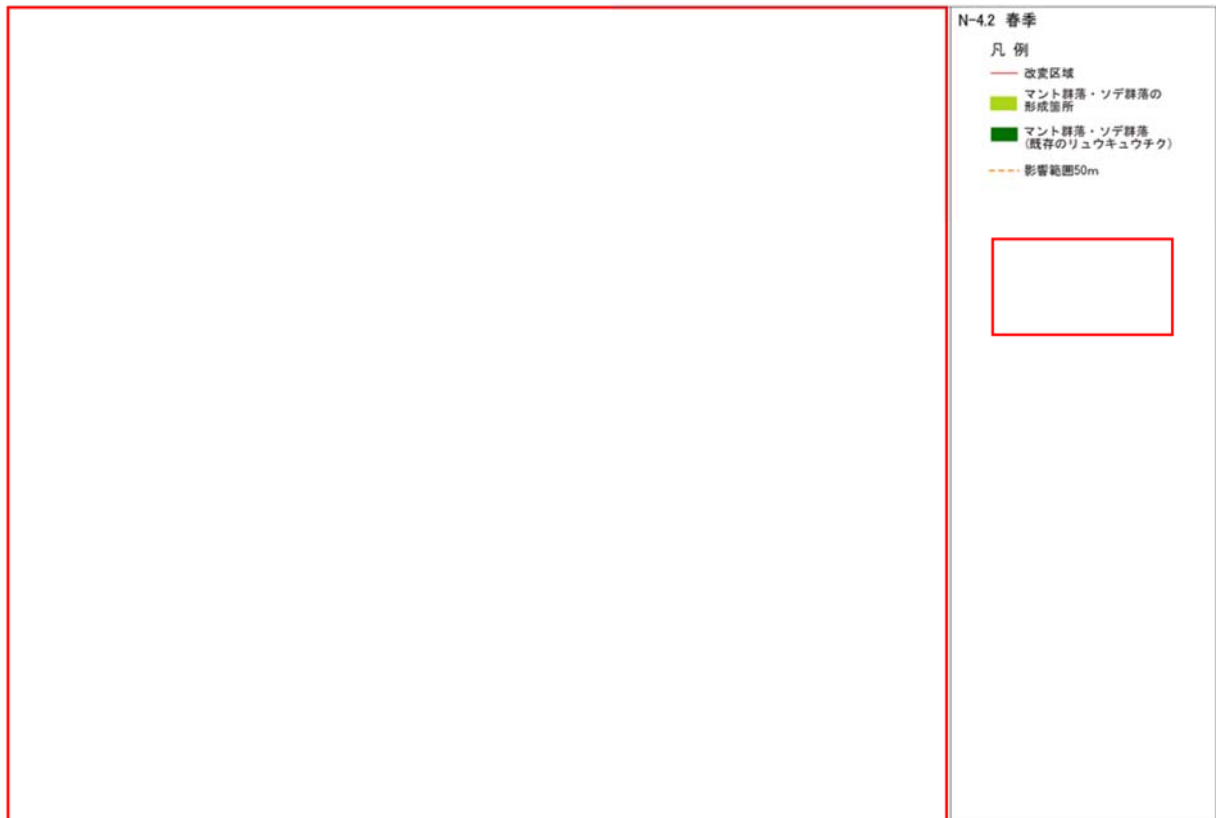


図 6.2.3-53(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.2:平成 29 年度春季)

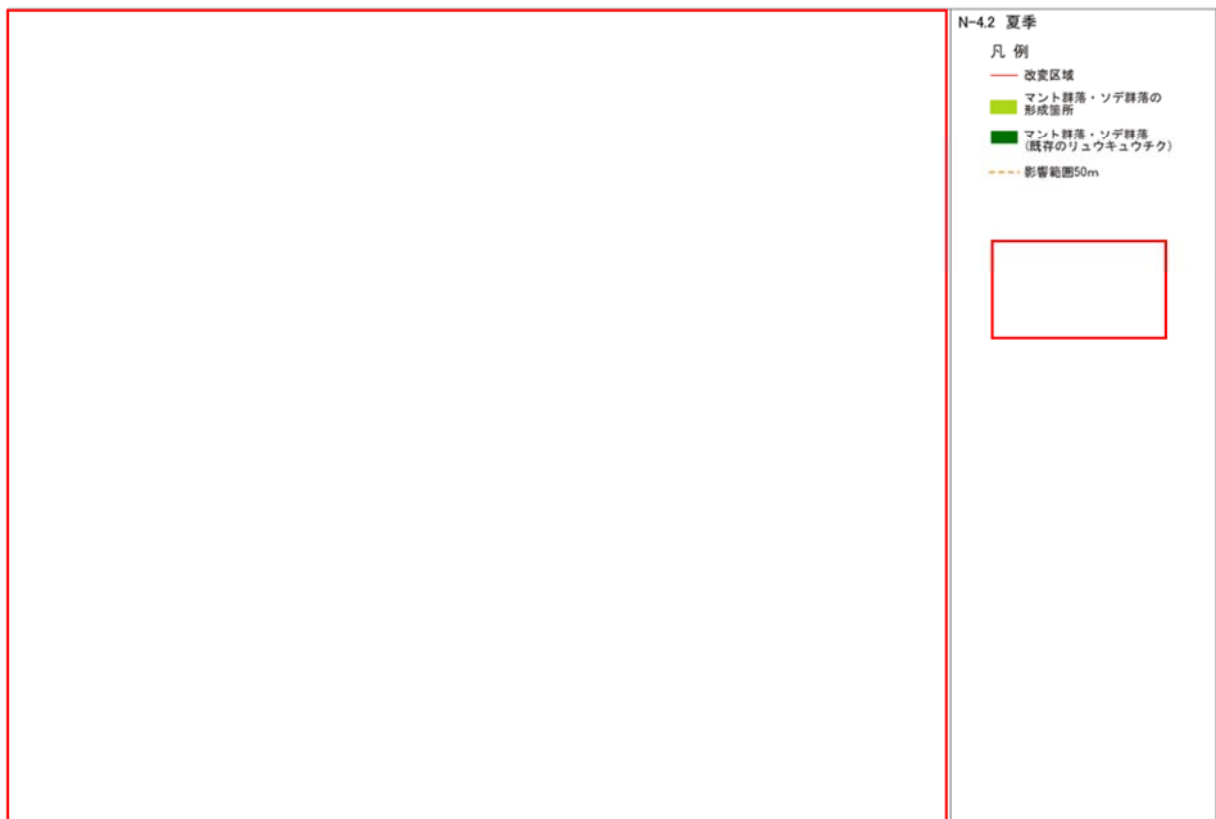


図 6.2.3-53(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.2:平成 29 年度夏季)



図 6.2.3-53(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.2:平成 29 年度秋季)

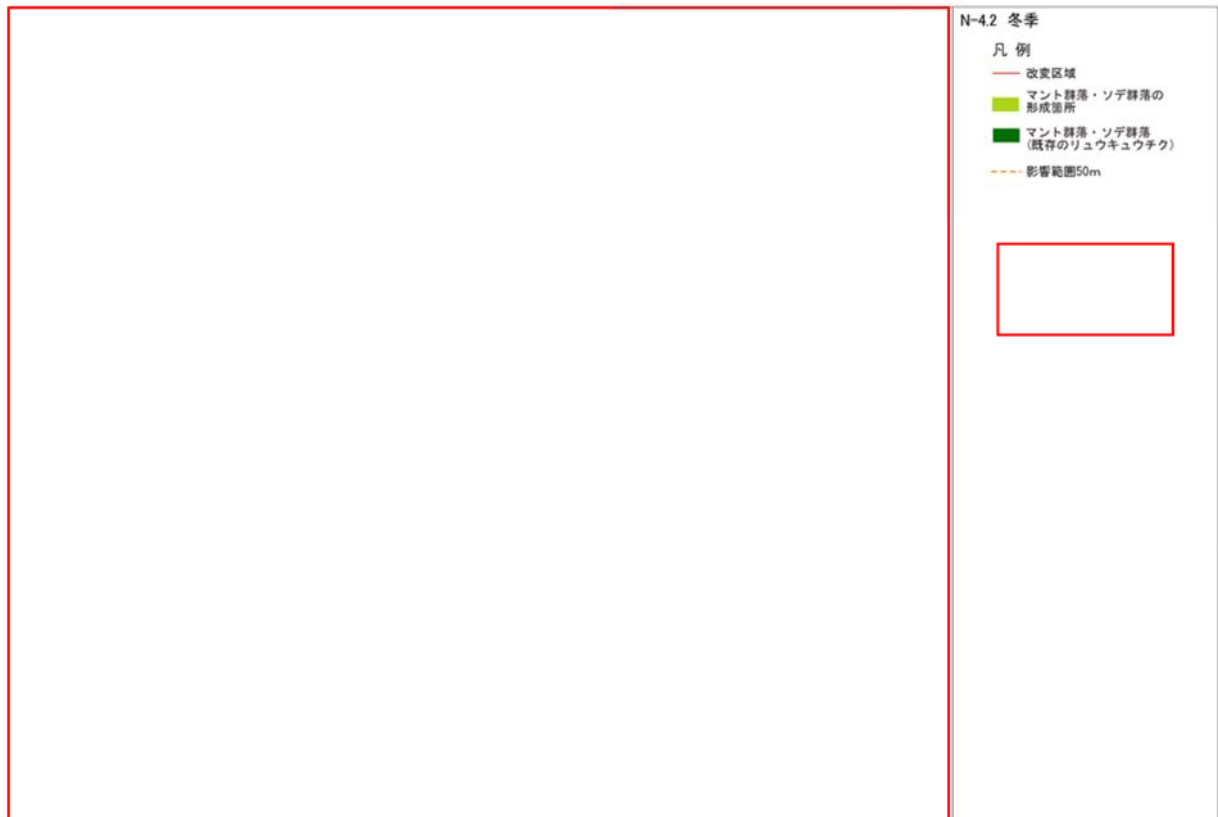


図 6.2.3-53(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.2:平成 29 年度冬季)

### (c) 植生断面図

平成 29 年度の最終調査における N-4.2 の南北方向の植生断面図を図 6.2.3-54 に、東西方向の植生断面図を図 6.2.3-55 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-4.2 は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林及び草地環境が広がっている。

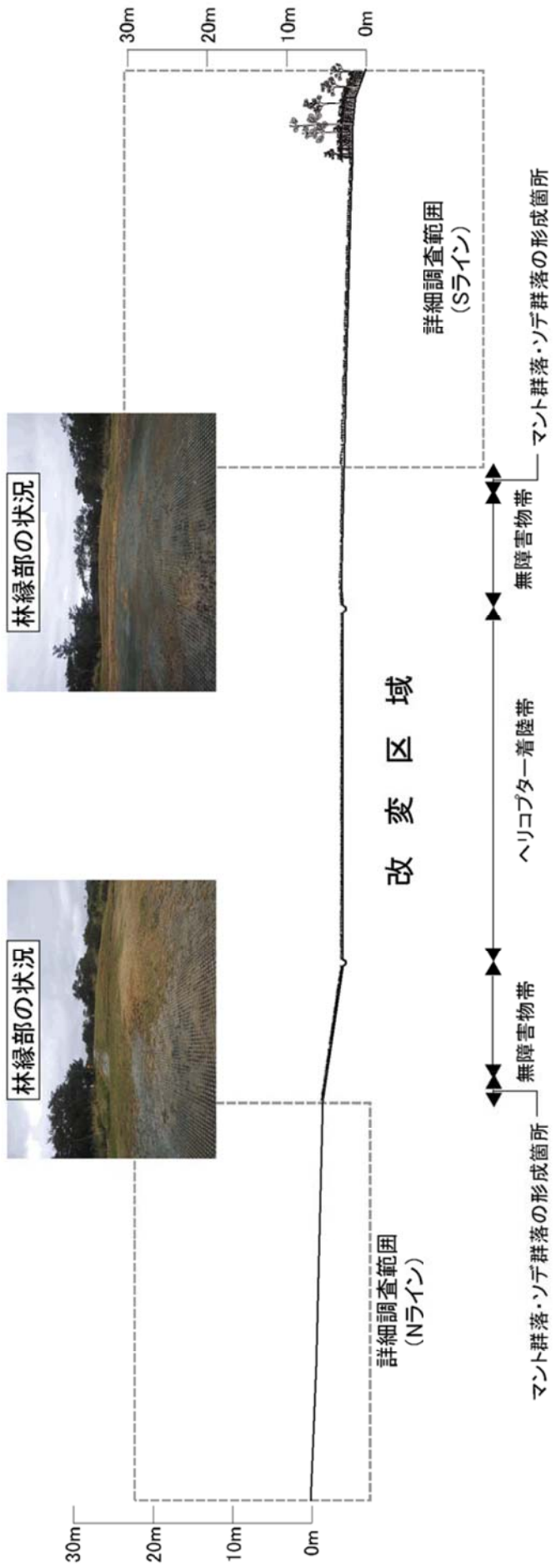
北側は、開けた平坦部となっており、路傍空地雑草群落の草地環境となっている。

南側は、北側と同様に開けた平坦部で、着陸帯辺縁部から路傍空地雑草群落の草地環境、着陸帯中心部から約 80m 付近より、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、着陸帯中心から約 70m 付近で谷部となっており、谷部はスダジイ-ヒリュウシダ群落、イスノキ-クロヘゴ群落、スダジイ-イスノキ群落、それ以外はスダジイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯中心から約 35m 付近まで傾斜地、そこからしばらく平坦部が続き、約 60m 付近から再び傾斜地となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落、スダジイ-クロヘゴ群落の森林環境となっている。

## N-4.2 冬季調査



植生状況	路傍・空地雑草群落(シバ等)										路傍・空地雑草群落(シバ等)	
	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	80	90
樹高(m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.6m~ 4.6m
胸高直径(cm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.3cm~ 7.1cm
確認された貴重種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図 6.2.3-54 影響範囲 50m 内の植生断面模式図(北側-南側) (N-4.2) 平成 29 年度冬季

### N-4.2 冬季調査

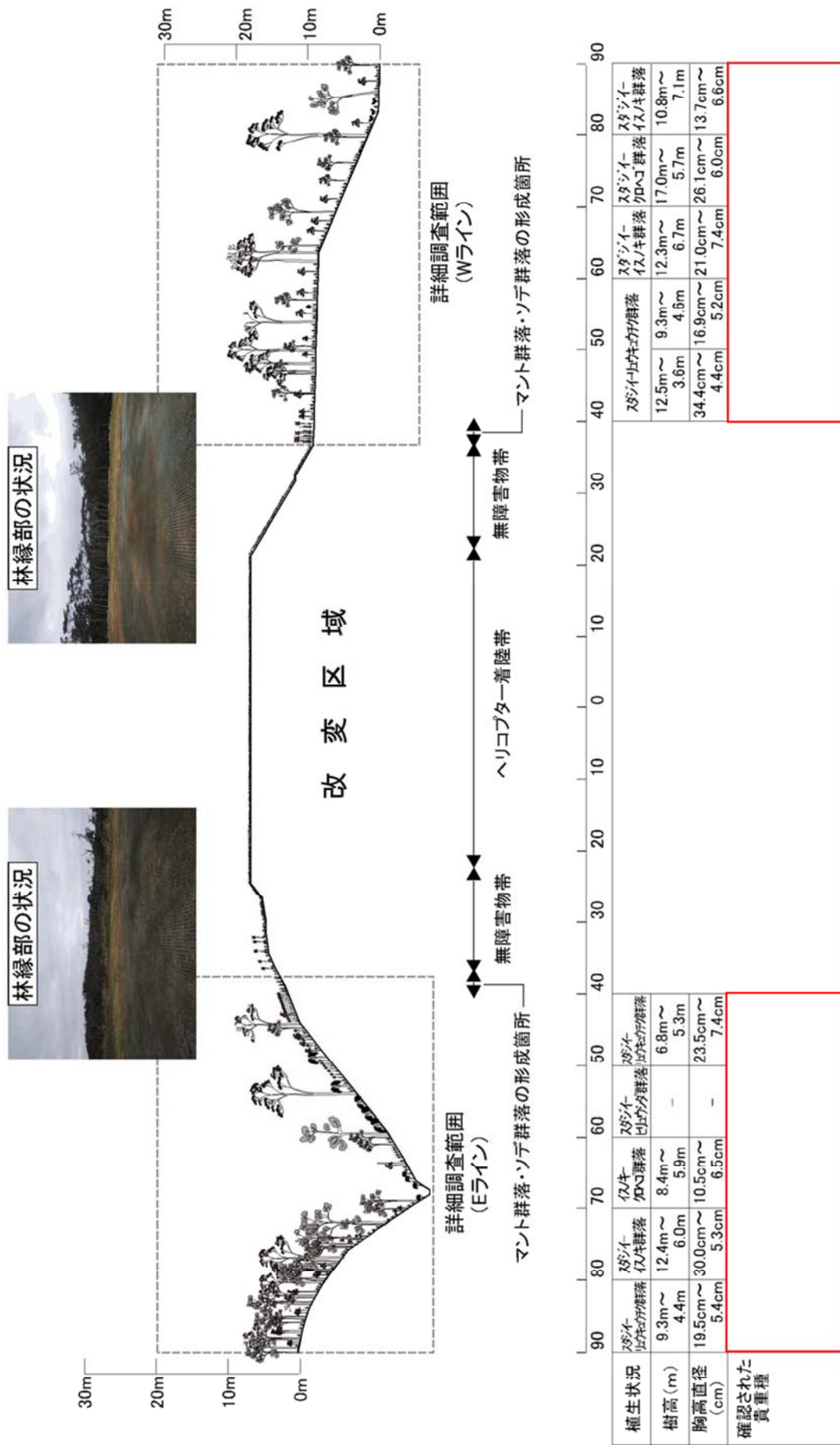


図 6.2.3-55 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-4.2) 平成 29 年度 冬季